
前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査

－ 報告書 －

【概要版】

令和 7 年 3 月

前橋市

調査の概要	1
調査の結果	6
1 こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）	6
自己肯定感と幸福感	6
孤独感と相談相手	7
居住環境と居留意向	9
進学と将来への希望	10
子どもの権利条約	11
2 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）	12
結婚意向と結婚しない理由	12
結婚しやすい社会の実現	13
不妊への不安と妊娠・出産に関する支援	14
子どもの人数	15
子育てに対する不安や負担	17
子育て支援に対するニーズ	19
少子化対策に関する課題	20
定住意向と転出意向	25
3 こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者）	27
暮らしの状況と経済的理由による生活困難	27
学習状況と進学希望・展望	29
相談環境と頼れる人の存在	32
生活満足度と心理的状态	33
4 事業者実態・意識調査	36
育児休業取得率と復職率	36
子育て中の従業員への支援	37
仕事と家庭の両立支援	38
「共育て」の促進	38
資料編（全体版及び調査票）	39
1 報告書（全体版）及び調査票	39

調査の概要

1 調査目的

本市の少子化について、こども・若者の意識や生活実態等の現状と課題を把握・分析し、これまで取り組んできた少子化対策等の効果の検証及び今後の施策等の検討を行うことを目的にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の結果はこども計画の基礎資料としても活用します。

2 調査期間

令和6年10月31日（木）～令和6年12月6日（金）

3 調査実施状況

No.	調査対象	対象数	有効回収数	有効回収率
1	こども・若者意識調査（小学生）	4,831	1,276	26.4%
2	こども・若者意識調査（中学生）	4,878	917	18.8%
3	こども・若者意識調査（高校生）	1,500	563	37.5%
4	こども・若者意識調査（独身者）	1,500	320	21.3%
5	こども・若者意識調査（既婚者）	1,500	569	37.9%
6	こども・若者意識調査（子育て中の保護者）	1,500	697	46.5%
7	こどもの生活状況調査（中学2年生）	2,496	1,088	43.6%
8	こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）	2,496	1,314	52.6%
9	事業者実態・意識調査（事業者）	1,500	562	37.5%

4 調査方法

（1）こども・若者意識調査（小学生）

①対象者		
市立小学校5年生 2,424人、小学6年生 2,407人 計 4,831人		
②調査項目		
・属性 ・自己認識 ・居場所 ・生活、活動	・経験 ・人とのつながり ・社会参加 ・将来像	・家庭生活、学校教育 ・学校生活 ・インターネット ・こどもの権利
③実施方法		
前橋市保護者等連絡システム（すぐーる）で配信し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）		

(2) こども・若者意識調査（中学生）

①対象者		
市立中学校1年生 2,351人、中学3年生 2,527人 計 4,878人		
②調査項目		
・属性 ・自己認識 ・居場所 ・生活、活動	・経験 ・人とのつながり ・社会参加 ・将来像	・家庭生活、学校教育 ・学校生活 ・インターネット ・こどもの権利
③実施方法		
前橋市保護者等連絡システム（すぐる）で配信し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）		

(3) こども・若者意識調査（高校生）

①対象者		
住民基本台帳から15～18歳の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性 ・自己認識 ・居場所 ・生活、活動	・経験 ・人とのつながり ・社会参加 ・将来像	・家庭生活、学校教育 ・学校生活 ・インターネット ・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月6日（水）～令和6年11月29日（金）		

(4) こども・若者意識調査（独身者）

①対象者		
住民基本台帳から20代、30代の未婚（未婚と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性 ・結婚 ・妊娠、出産 ・子ども	・子育て ・結婚、仕事と子育て、家庭等 ・少子化対策	・こどもの未来 ・定住性 ・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(5) こども・若者意識調査（既婚者）

①対象者		
住民基本台帳から20代、30代の既婚（既婚と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性 ・結婚 ・子ども	・結婚、仕事と子育て、家庭等 ・少子化対策 ・こどもの未来	・定住性 ・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(6) こども・若者意識調査（子育て中の保護者）

①対象者		
住民基本台帳から20～40代の子育て中（子育て中と推測される方を含む）の市民1,500人を無作為に抽出		
②調査項目		
・属性 ・子ども ・子育て	・地域とのかかわり ・結婚、仕事と子育て、家庭等 ・少子化対策	・こどもの未来 ・定住性 ・こどもの権利
③実施方法		
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収		
④調査期間		
令和6年11月13日（水）～令和6年12月6日（金）		

(7) こどもの生活状況調査（中学2年生）

①対象者	
市立中学校2年生 2,496人	
②調査項目	
・属性 ・学習状況 ・進学希望、展望	・部活動等への参加 ・日常的な生活の状況 ・支援など
③実施方法	
依頼状を学校を通じて配布し、Webで回答を回収	
④調査期間	
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）	

(8) こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）※（7）の保護者

①対象者	
市立中学校2年生の保護者 2,496人	
②調査項目	
・属性 ・就労状況 ・子育て ・暮らしの状況	・進学希望、展望 ・日常的な生活の状況 ・支援など
③実施方法	
依頼状を学校を通じて配布し、Webで回答を回収	
④調査期間	
令和6年10月31日（木）～令和6年11月15日（金）	

(9) 事業者実態・意識調査（事業者）

①対象者
市内の従業員数が5名以上の事業所から1,500事業所を無作為に抽出
②調査項目
・事業所 ・両立支援制度の認知度 ・育児休業制度 ・働きやすい環境整備 ・女性活躍推進 ・ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進、少子化対策
③実施方法
依頼状を郵送で送付し、Webで回答を回収
④調査期間
令和6年11月6日（水）～令和6年12月6日（金）

5 調査主体

前橋市こども未来部こども支援課

6 報告書の見方

①本報告書内では、調査名称や調査対象区分を、以下の呼び方としています。

No.	調査名称	呼び方
1	こども・若者意識調査（小学生）	小学生調査
2	こども・若者意識調査（中学生）	中学生調査
3	こども・若者意識調査（高校生）	高校生調査
4	こども・若者意識調査（独身者）	独身者調査
5	こども・若者意識調査（既婚者）	既婚者調査
6	こども・若者意識調査（子育て中の保護者）	子育て中の保護者調査
7	こどもの生活状況調査（中学2年生）	中学2年生本人調査
8	こどもの生活状況調査（中学2年生保護者）	中学2年生保護者調査
9	事業者実態・意識調査（事業者）	事業者調査

②本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

③百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。

④複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。

⑤本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

⑥回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合があります。

⑦本文中では、調査結果の数値は「%」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。

⑧統計数値を考察するにあたっては、傾向をまとめて表現する場合には、おおむね以下のとおりとしています。

例	表現
17.0～19.9%	約2割
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割を超える
23.0～26.9%	2割台半ば
27.0～29.9%	約3割

⑨第3章及び第4章の分析対象は、次のとおり定義します。

章	対象	定義
第3章	高校生	回答者全体から【現在の通学状況】のうち「その他」を除いた者。
第4章	独身者	回答者全体から【婚姻状況】のうち「結婚している（婚姻届を出し、入籍している 又は 事実婚の状態である）」、「結婚したが、死別または離婚している」を除いた者。
	既婚者	回答者全体から【婚姻状況】のうち「結婚したが、死別または離婚している」、「結婚したことがない」を除いた者、又は【子どもの有無】のうち「いる」を除いた者。

調査の結果

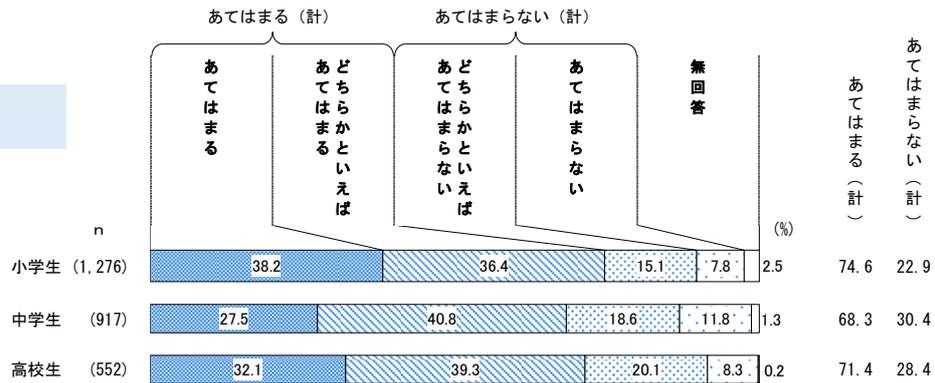
1 こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）

自己肯定感と幸福感

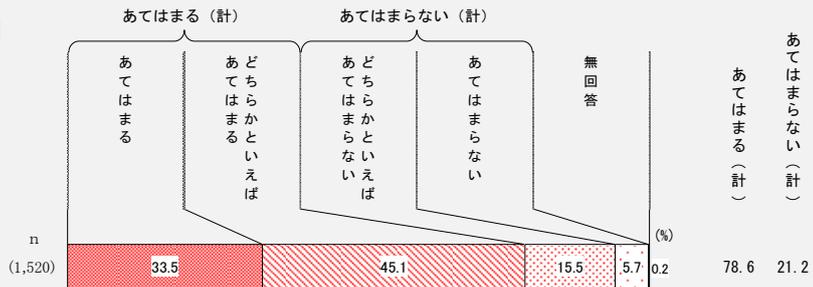
小学生、中学生、高校生のいずれも「今の自分が好きだ」という自己肯定感が全国調査と比較して低く、特に中学生で自己肯定感が低い傾向があることがわかりました。また、「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感も、小学生、高校生と比べると中学生の幸福感が低く、全国調査と比較しても低い結果となっています。

■今の自分が好きだ

Q：今の自分が好きだ



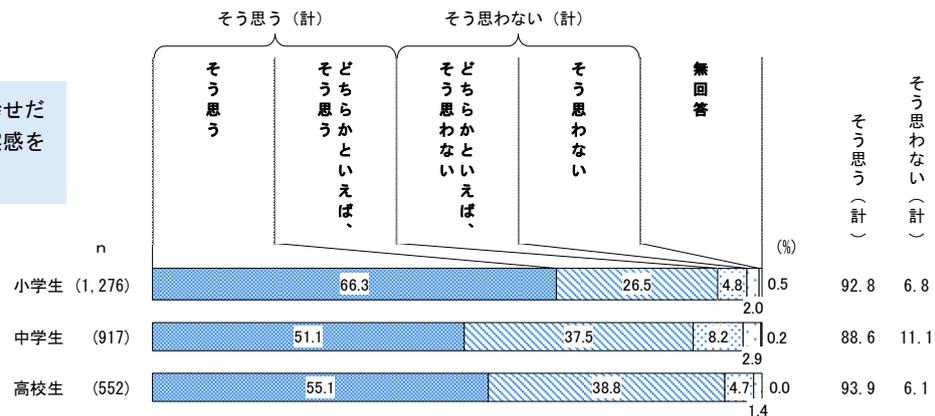
【全国調査】



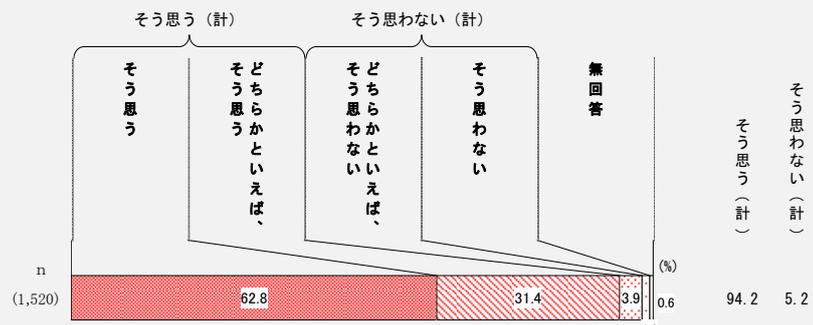
※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

■今の幸福感

Q：あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。



【全国調査】



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

孤独感と相談相手

小学生、中学生ともに孤独感が全国調査と比較して高い傾向がうかがえます。

また、相談について、「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」という回答は、学校の段階が上がるにつれて増加しています。

<孤独の把握方法>

本調査では、孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、2種類の設問を採用しています。

①間接質問

「UCLA孤独感尺度」の日本語版3項目短縮版に基づく質問であり、3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。

ア) 自分には話せる人がいないと感じることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感じることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

ウ) 自分はひとりぼっちだと感じる

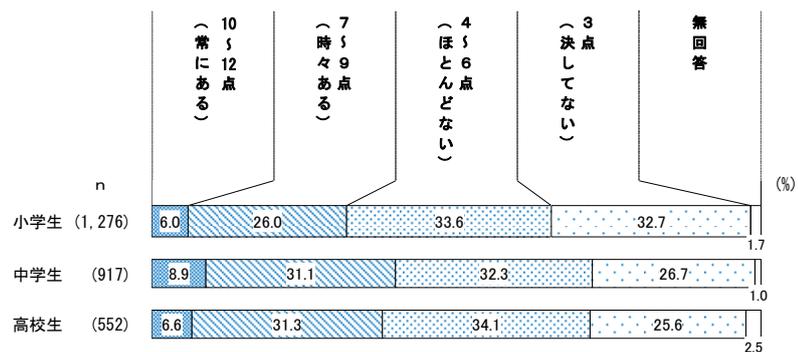
1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

②直接質問

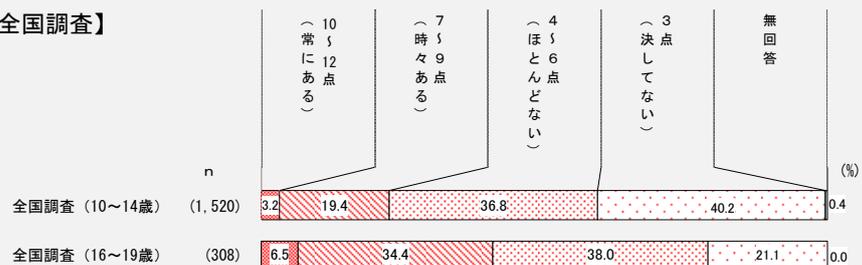
孤独感を直接的に質問。この調査では「直接質問」と呼称する。

■孤独感(間接質問)

Q: ア)からウ)の項目について、あなたはどのくらいよく感じていますか。



【全国調査】

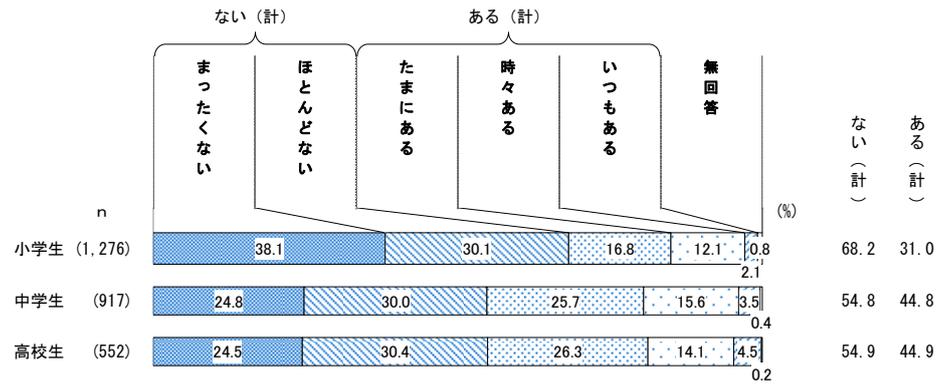


※内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度) / 10歳~14歳対象調査

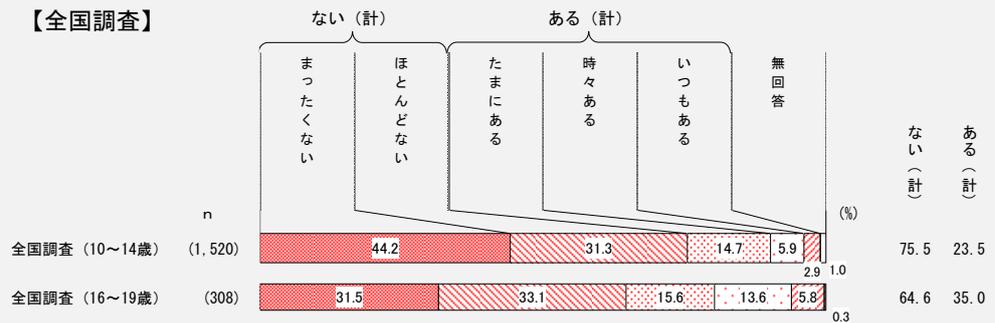
※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査(令和5年度) / 16歳~19歳集計結果

■ 孤独感(直接質問)

Q: あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。



【全国調査】



※内閣府 子ども・若者の意識と生活に関する調査 (令和4年度) / 10歳~14歳対象調査

※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査 (令和5年度) / 16歳~19歳集計結果

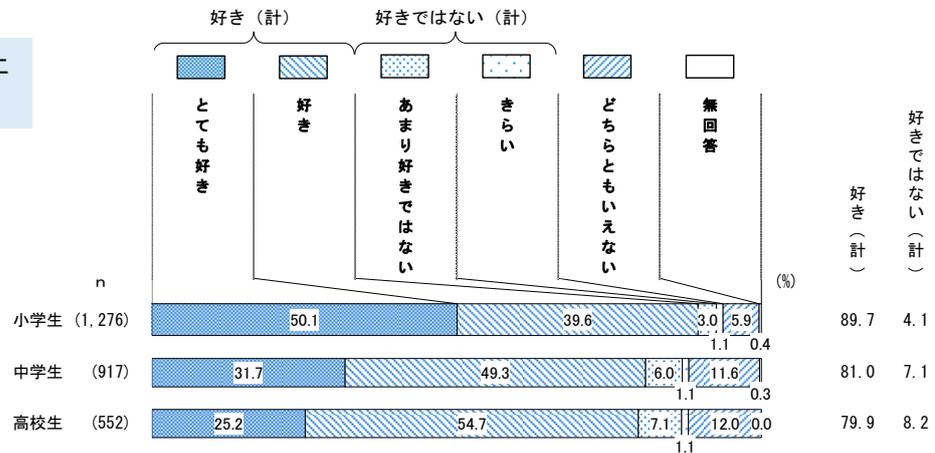
居住環境と居住意向

小学生の約9割が「前橋市を好き」と回答していますが、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれてその割合はやや減少しています。

大人になってからも前橋市に住みたいという居住意向は高く、中学生、高校生のどちらも県調査を上回っています。特に、中学生では男性、高校生では女性の居住意向が高いことがわかりました。

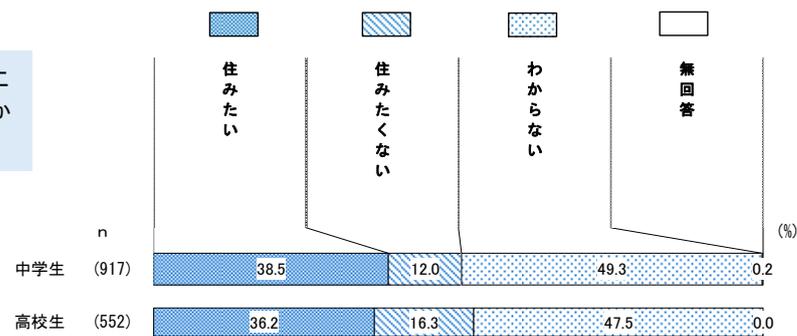
■居住環境

Q: あなたは、今住んでいるところ（前橋市）は好きですか。

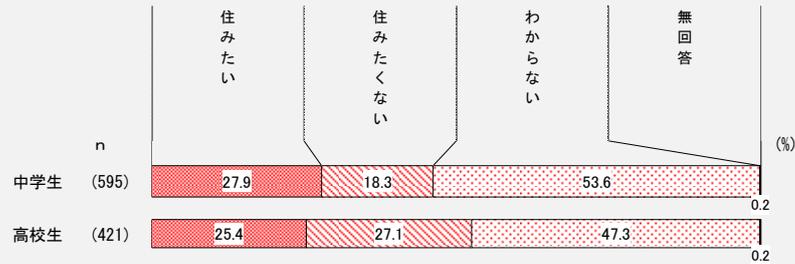


■居住意向

Q: あなたは、今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいと思いますか。

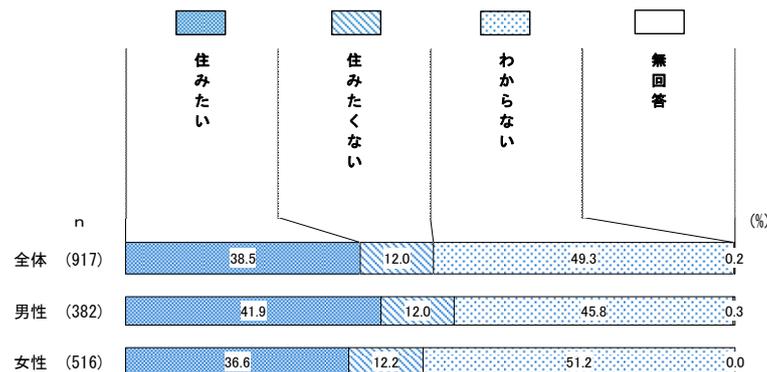


【県調査】

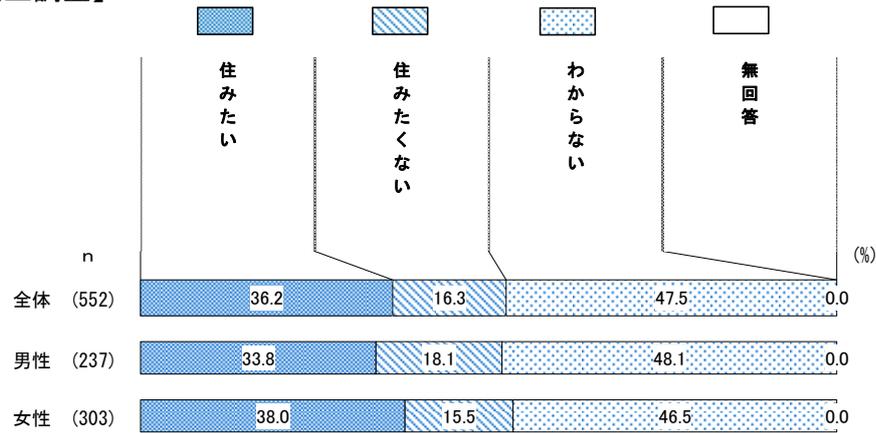


※群馬県 第8回ぐんま青少年基本調査（令和5年度）

■居住意向【中学生調査】



■居留意向【高校生調査】



進学と将来への希望

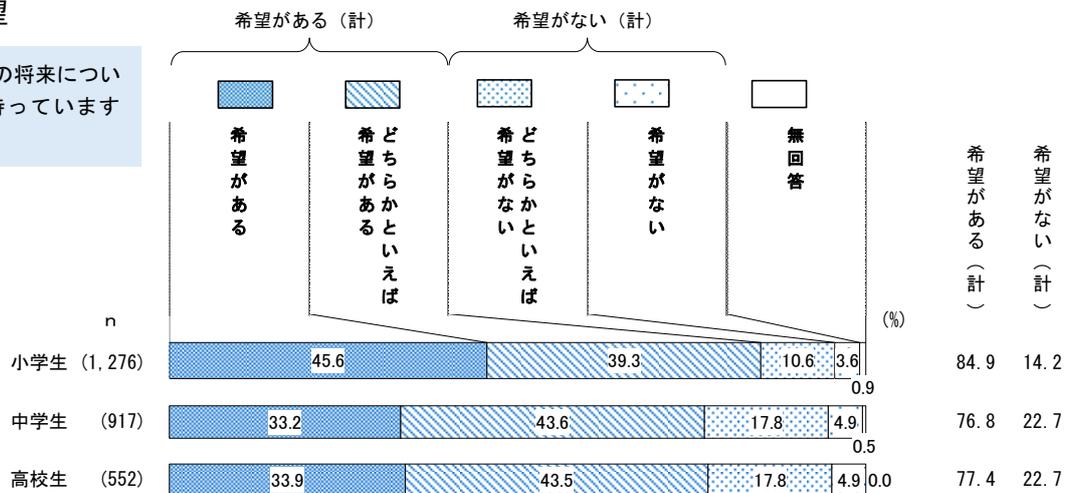
「将来に希望がある」という回答は、小学生で8割台半ばですが、中学生と高校生は7割台となっています。

また、小学生から高校生までの約9割が「社会のために役立つことをしたい」と思っていることがわかりました。

高校卒業後の進路については、特に女性で進学意向が高くみられます。進路や就職先としては東京圏を希望する人が多い結果となっています。

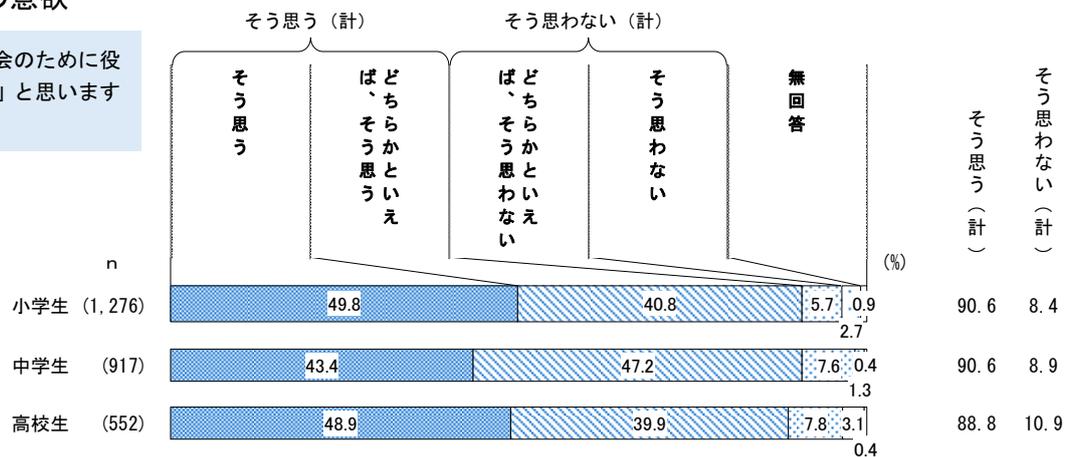
■将来への希望

Q: あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。



■社会貢献への意欲

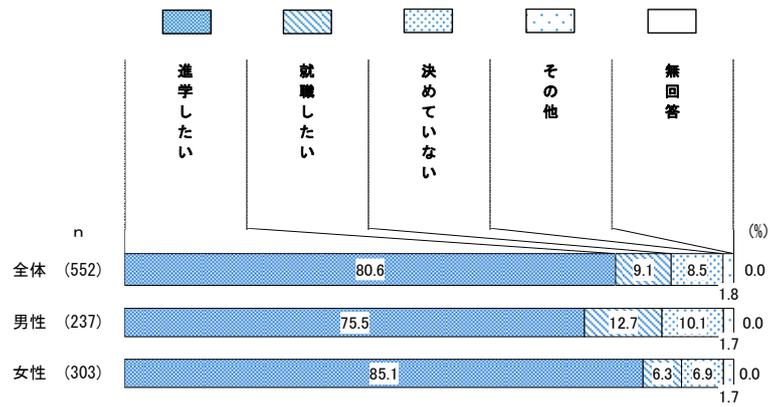
Q: あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。



■高校卒業後の進路

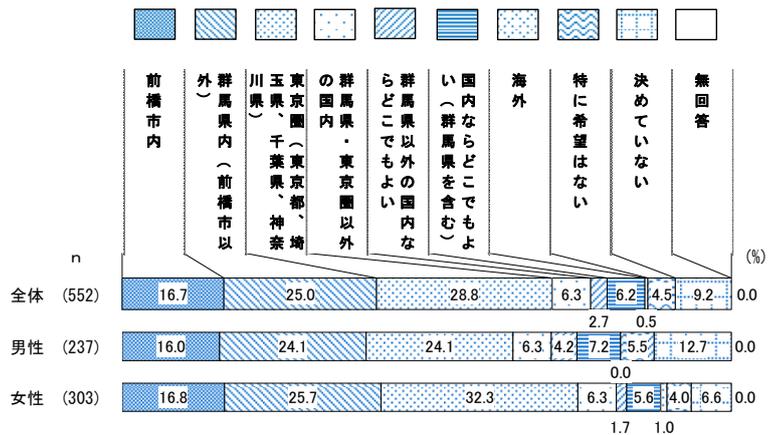
【高校生調査】

Q: あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。



■高校卒業後に進路や就職などを考えている地域【高校生調査】

Q: あなたが高校卒業後、進学や就職などを考えている地域はどこですか。

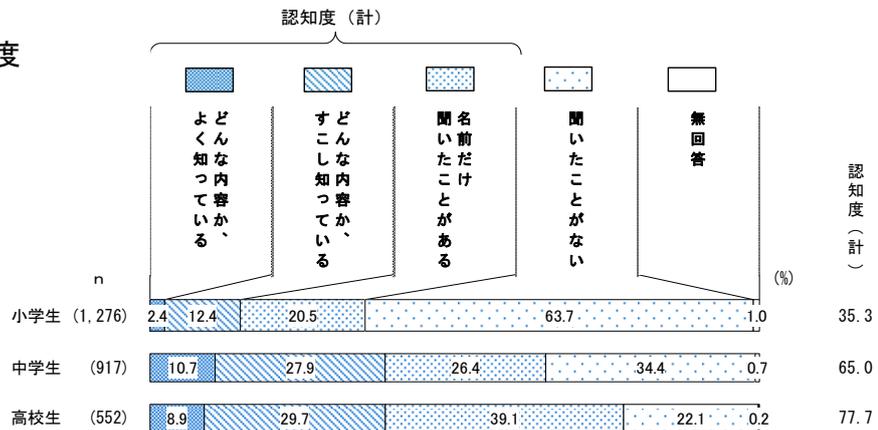


子どもの権利条約

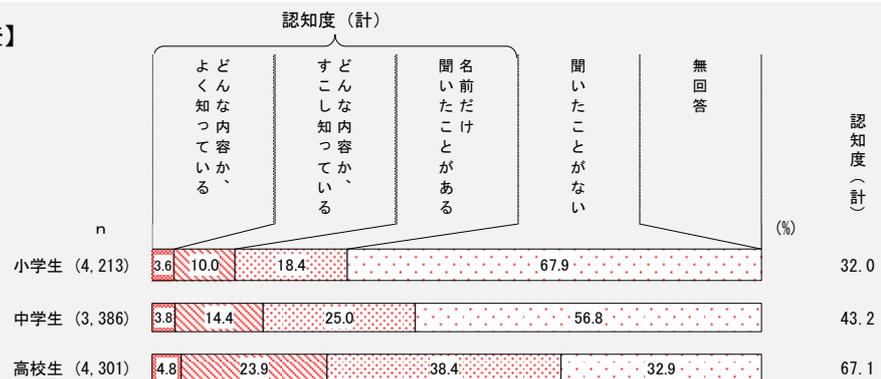
子どもの権利条約の認知度は、小学生、中学生、高校生のいずれも全国調査と比較して高く、学校の段階が上がるにつれて割合が増加しています。特に中学生では全国調査の結果を大きく上回り、6割台半ばが子どもの権利条約を認知しています。

■子どもの権利条約の認知度

Q: あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。



【全国調査】



※子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査 (令和5年度)

2 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）

結婚意向と結婚しない理由

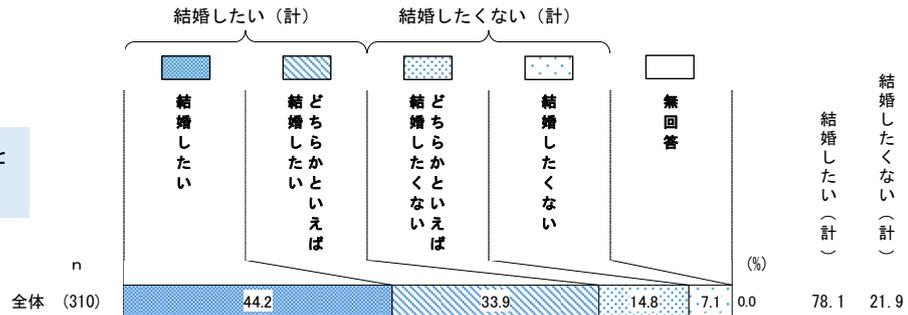
独身者の結婚意向は高く、約8割の方が「結婚したい」と考えており、県調査を大きく上回っています。

結婚していない理由として最も多いのは「出会いがないから」となっており、続いて「結婚したいと思う相手がないから」や「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」が挙げられています。男女別では、男性は「出会いがないから」と「収入面に不安がある」という理由が多く、女性は「結婚したい相手がないから」と「自分の時間を優先したいから」といった理由が多くなっています。

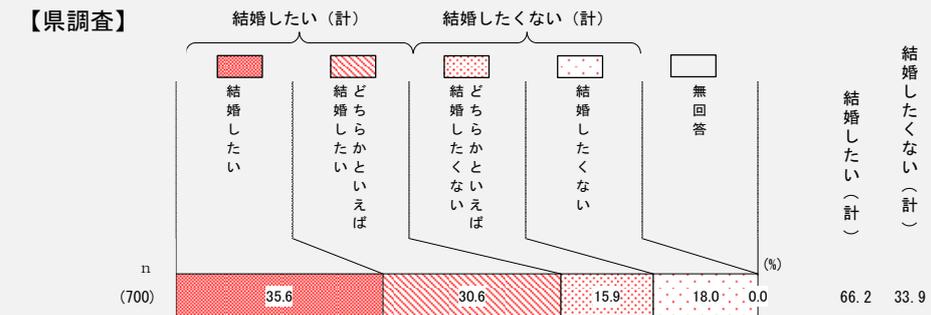
■ 将来の結婚意向

【独身者調査】

Q：あなたは将来結婚したいと思いますか。



【県調査】

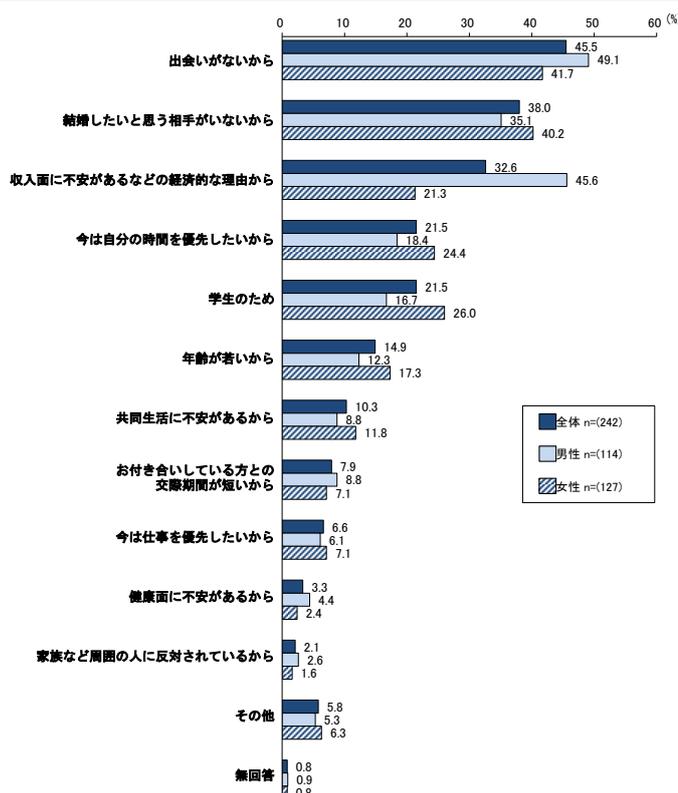


※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

■ 結婚していない理由

【独身者調査】

Q：現在、結婚していない理由は何ですか。



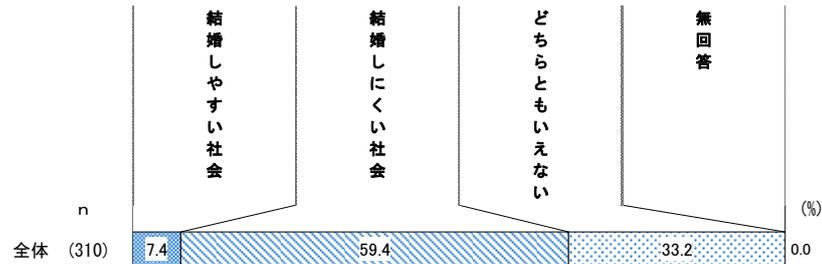
結婚しやすい社会の実現

独身者の約6割が「結婚しにくい社会だと思う」と感じており、その主な理由として20歳代、30歳代ともに「若者が経済的に不安定」が挙げられています。

また、独身者が行政に期待する支援として最も多いのは「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」であり、次いで「社会全体で結婚を応援する機運づくり」や「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が挙げられています。年齢別では、20歳代では経済的支援を望む方の割合がより高く、30歳代では出会いの場や機会を創設する取組みを求める方の割合が高くなっています。

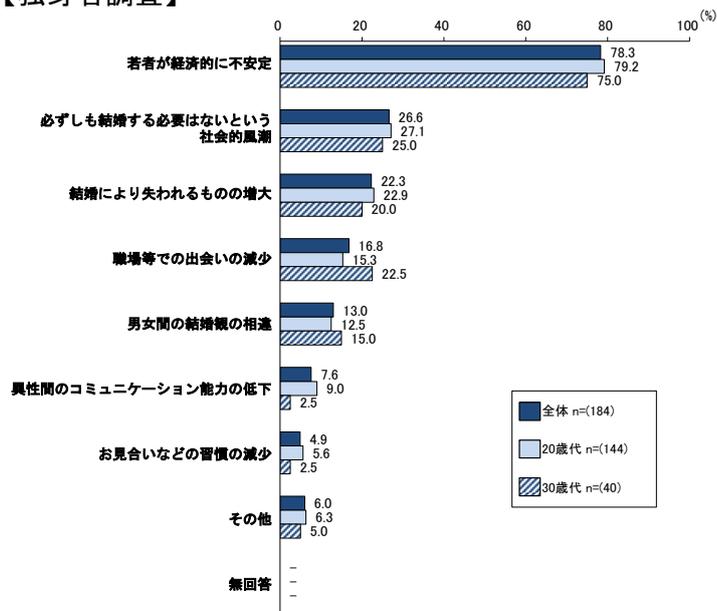
■今の社会は結婚しやすい社会だと思うか【独身者調査】

Q：今の社会は結婚しやすい社会だと思いますか。



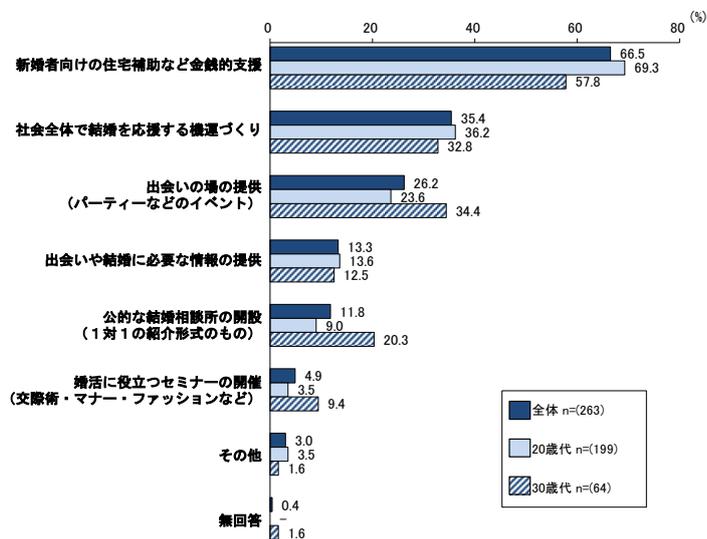
■結婚しにくい社会だと思う理由【独身者調査】

Q：結婚しにくい社会だと思う理由について、どのようにお考えですか。



■結婚に関する支援で行政に期待すること【独身者調査】

Q：結婚の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。



不妊への不安と妊娠・出産に関する支援

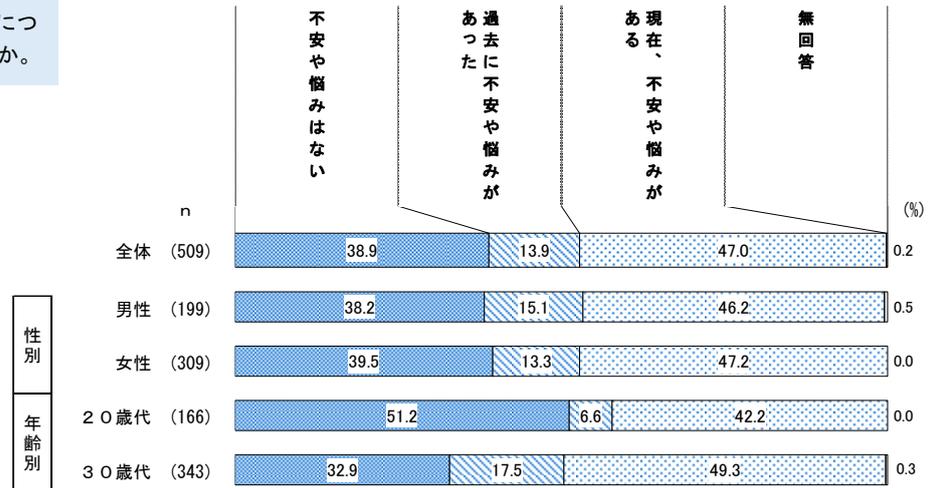
既婚者の約6割が不妊に関する不安や悩みを抱えたり、抱えた経験があり、特に30歳代では約7割とその割合が高くなっています。

独身者が行政に期待する妊娠・出産支援としては、「妊婦健康診査の公費負担の充実」が最も高く、妊娠中の健康管理や妊婦のケアに関する支援を求める声が強いです。

特に女性では、「不妊治療費助成の充実」を期待する方の割合が男性よりも高くなっています。

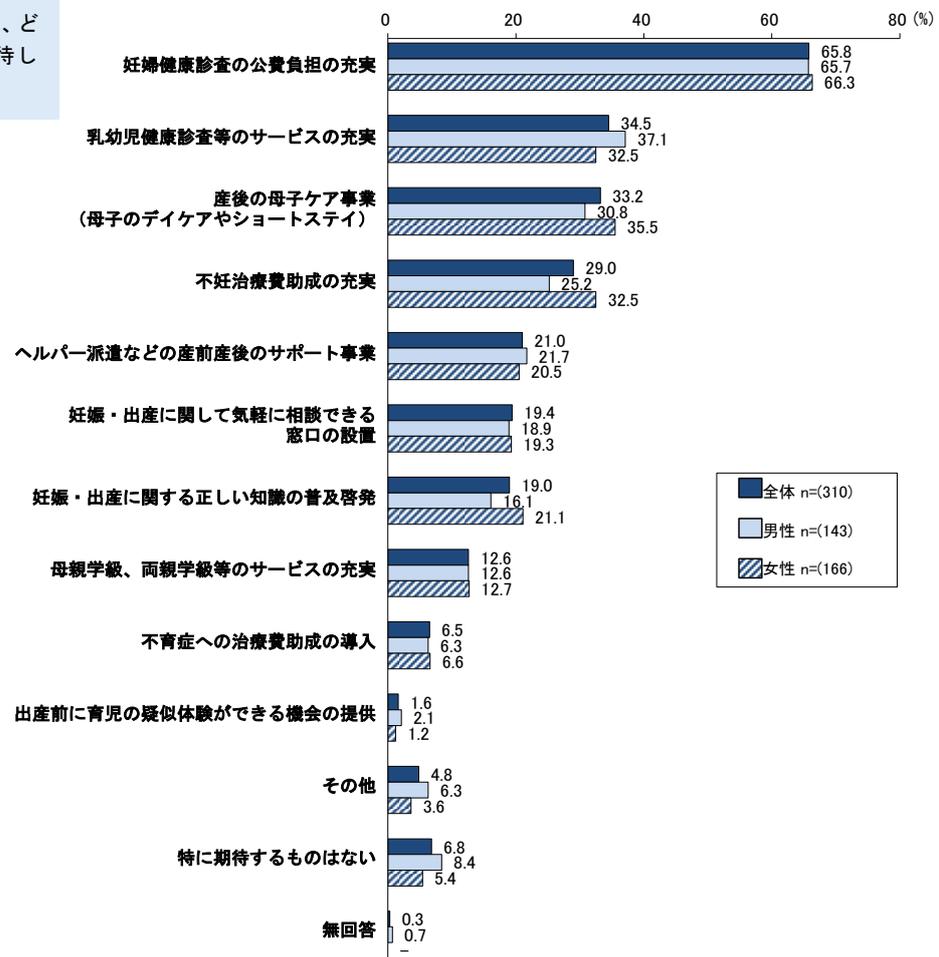
■不妊についての不安や悩み【既婚者調査】

Q: あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。



■妊娠・出産に関する支援として行政に期待すること【独身者調査】

Q: 妊娠・出産の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。



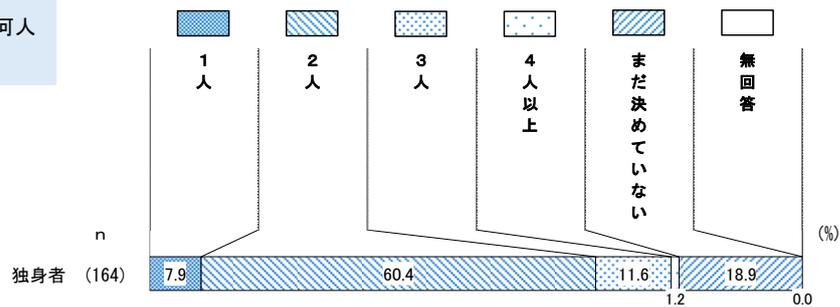
子どもの人数

理想の子どもの人数について、独身者、既婚者、子育て中の保護者のいずれも「2人」を望む傾向が強く、独身者は6割、既婚者は5割台半ば、子育て中の保護者は約5割が希望しています。

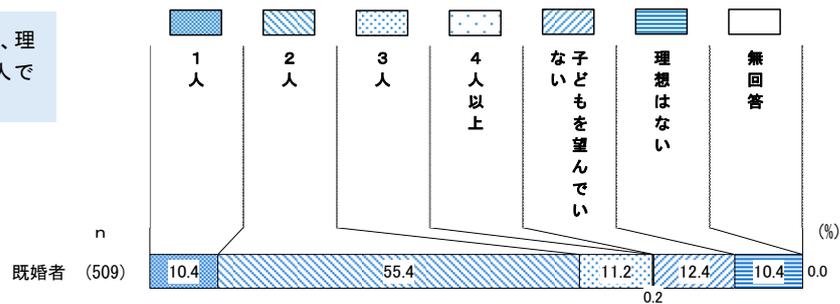
子育て中の保護者では「3人」を理想の子どもの人数としている方の割合が4割を超えて高くなっていますが、最終的に予定している子どもの人数では「3人」が2割まで減少しており、理想の人数より予定の人数が少なくなっています。理想の人数より予定の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が高く、次いで「高年齢で産むのは不安だから」や「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が挙げられています。

■将来授かりたい子どもの人数／理想の子どもの人数

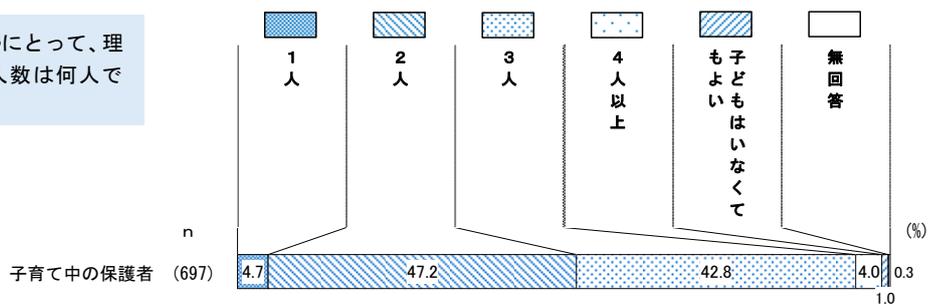
Q：あなたは将来子どもを何人授かりたいですか。



Q：あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。

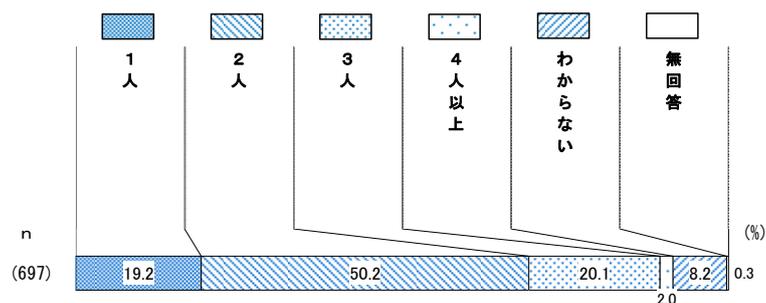


Q：あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。



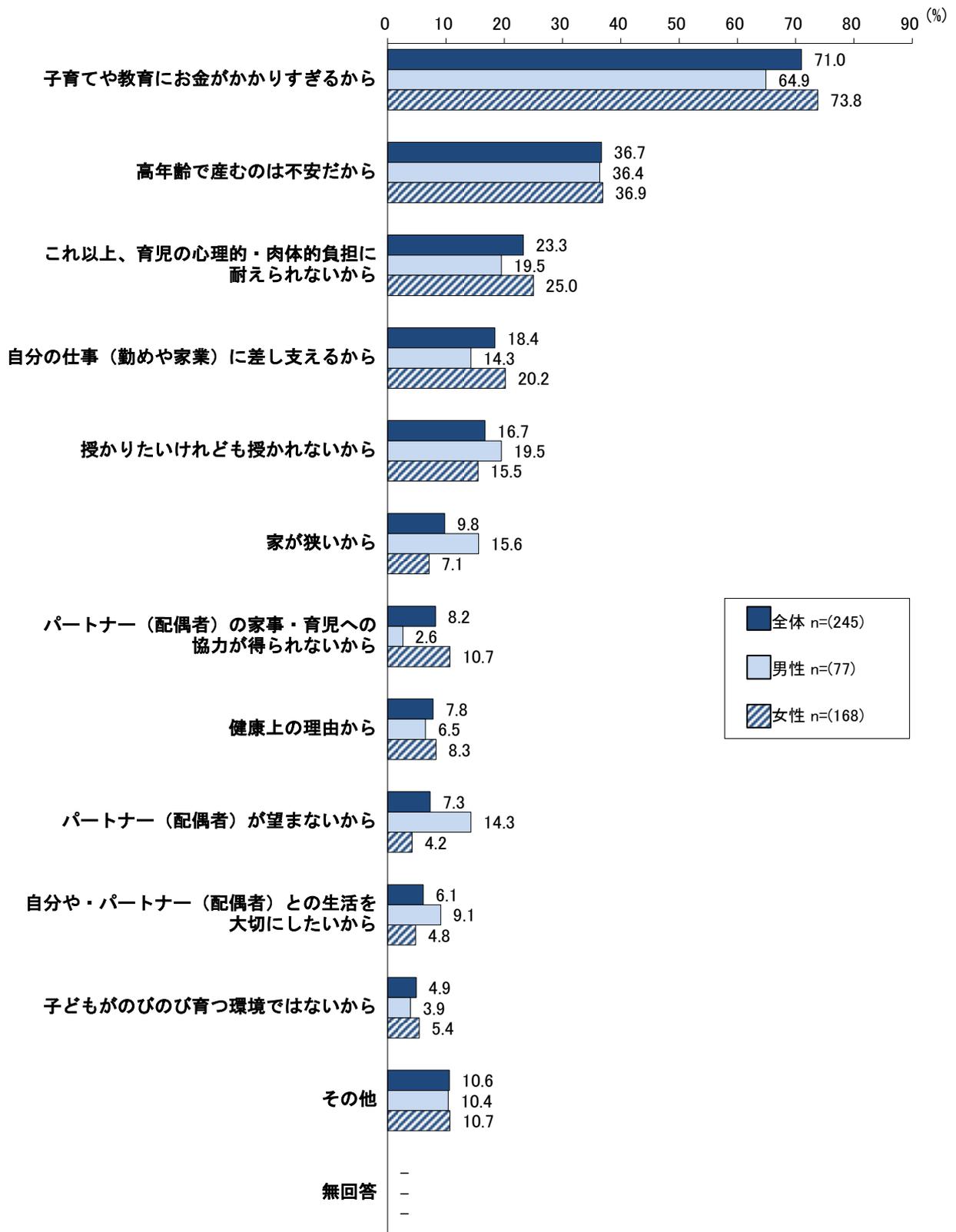
■予定の子どもの人数【子育て中の保護者調査】

Q：あなたの子どもの人数について、最終的に何人を予定していますか。(予定の子どもの人数)



■「理想の子ども的人数」より「予定の子ども的人数」が少ない理由【子育て中の保護者調査】

Q: 「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。



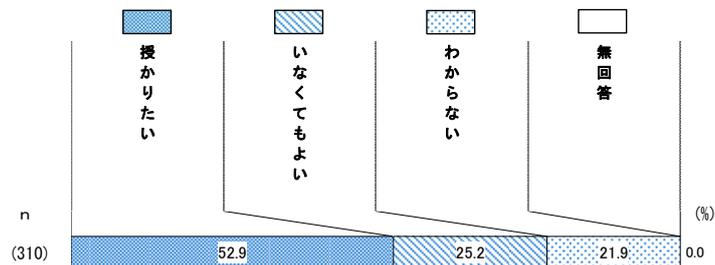
子育てに対する不安や負担

独身者の将来子どもを授かりたいかどうかの意向は、約5割が「授かりたい」、2割台半ばが「いなくてもよい」、約2割が「わからない」という結果になっています。「いなくてもよい」と考えている方の理由は「経済的に負担が大きいため」、「子育てに対して不安があるから」の割合が高くなっています。

また、子育て中の保護者の約8割が子育てに対して不安や負担感を抱えており、悩みごととしては「子育てで出費がかさむこと」が特に高くなっています。独身者が将来子育てをする上で不安なこととしては、「経済的にやっていけるか」と「子育てしながら仕事をすることが難しそう」が高くなっています。

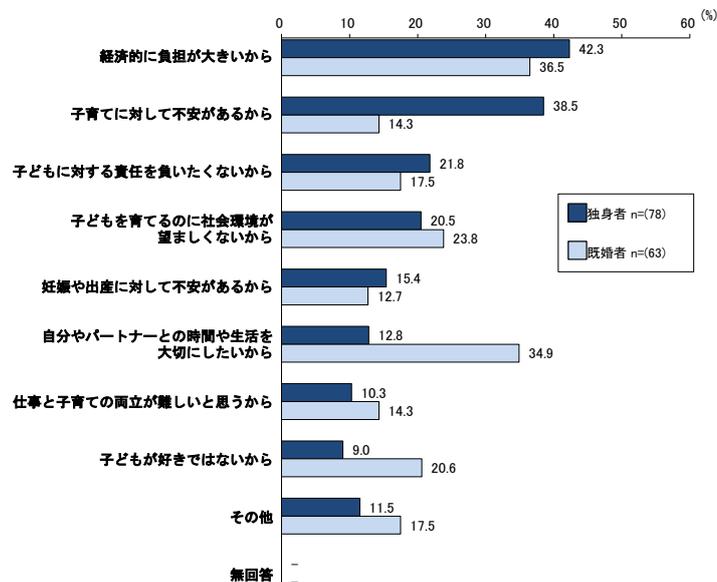
■将来子どもを授かりたいか【独身者調査】

Q：あなたは将来子どもを授かりたいですか。



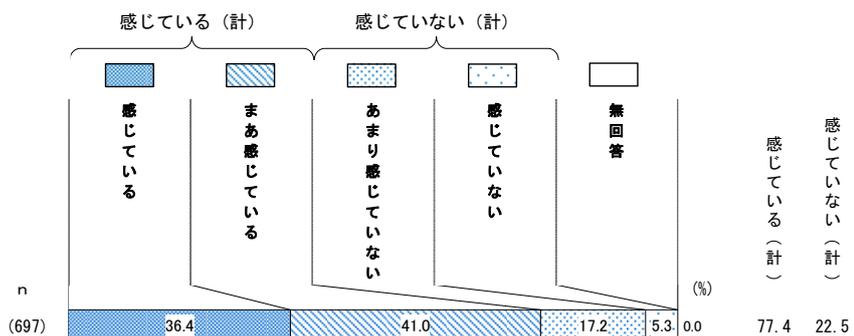
■子どもを望まない理由【独身者調査・既婚者調査】

Q：「いなくてもよい」／「子どもを望んでいない」と思う理由は何ですか。



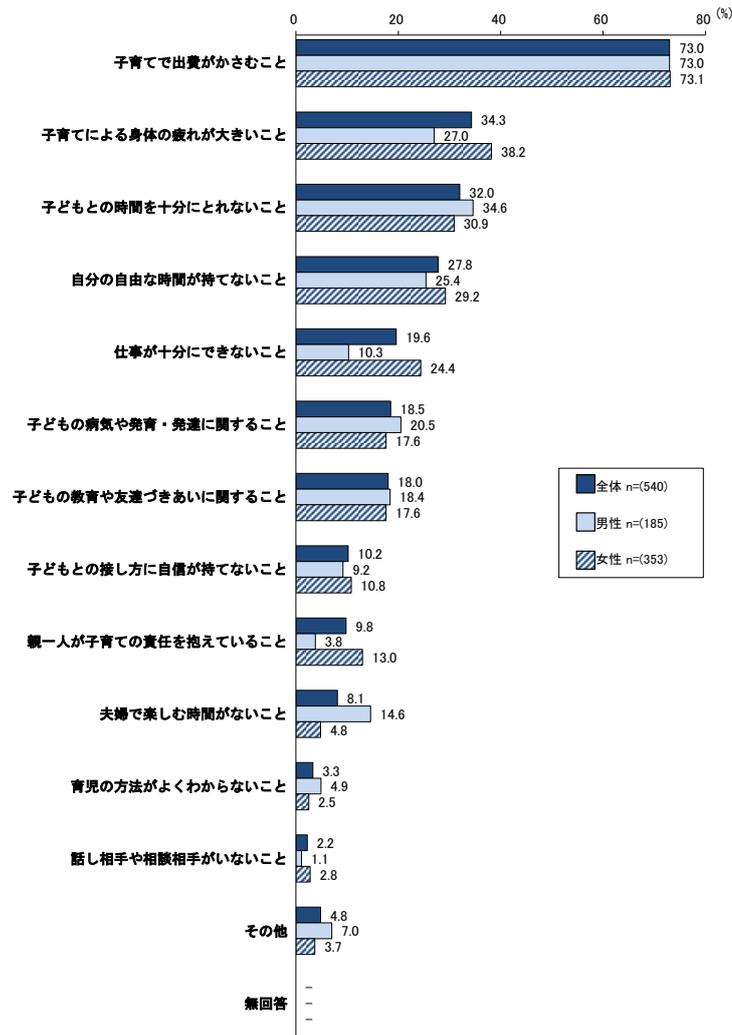
■子育てに関して不安感や負担感を感じる事【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。



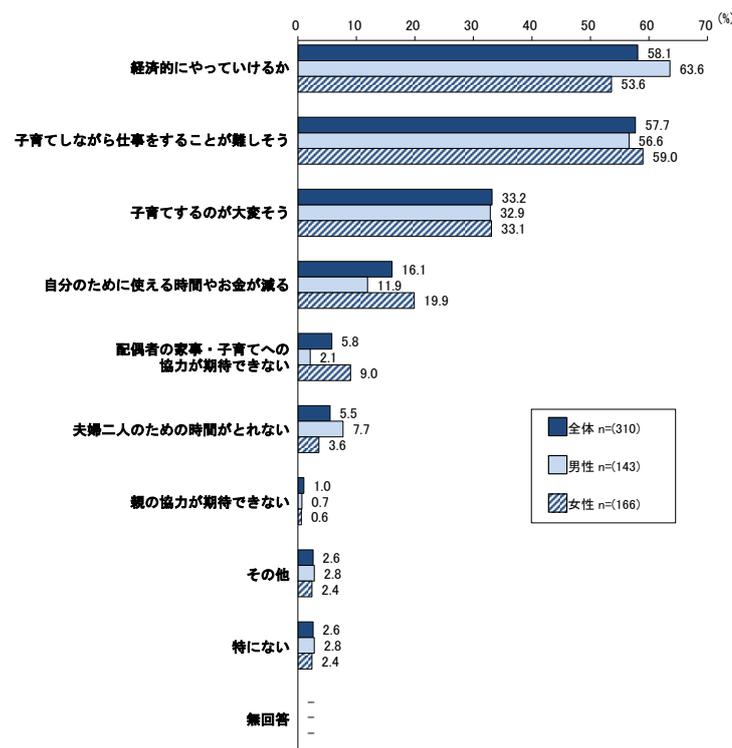
■子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること【子育て中の保護者調査】

Q: あなたが子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることはどのようなことですか。



■将来子育てをする上で不安なこと【独身者調査】

Q: 将来、子育てをする機会があるとした場合、不安に思うことは何ですか。



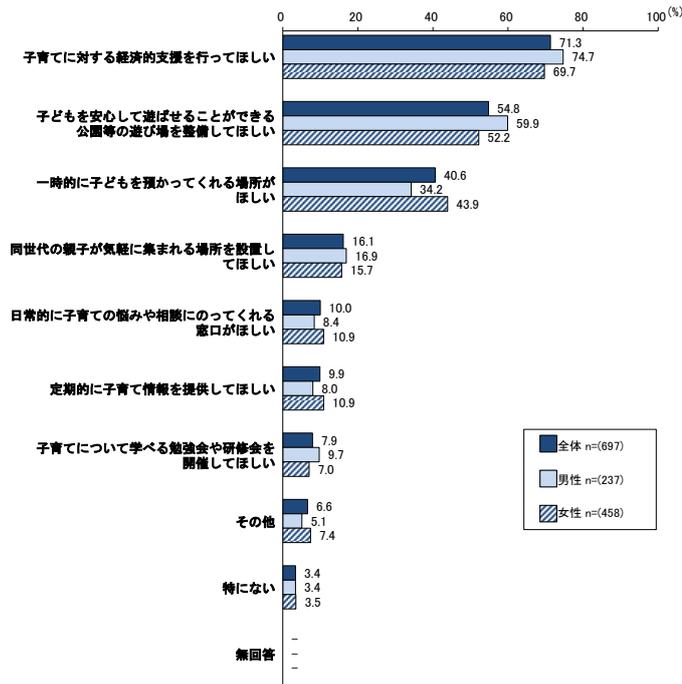
子育て支援に対するニーズ

子育て中の保護者が求めている支援は、「子育てに対する経済的支援」が約7割と最も多く、次いで「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場の整備」や「一時的に子どもを預かってくれる場所の設置」が挙げられています。

また、働きながら子育てを行っている方が増加している社会的状況から、仕事と子育てを両立するための支援としては、「労働時間の短縮やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができる制度」、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」などが挙げられています。

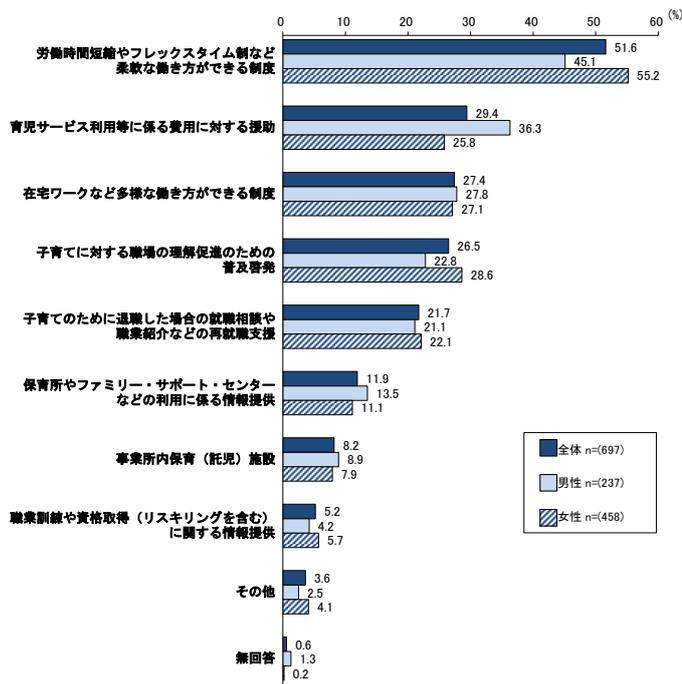
■充実させてほしい子育て支援【子育て中の保護者調査】

Q: 家庭で子育てをする上で、どのような子育て支援を充実させてほしいですか。



■仕事と子育ての両立に関して必要な支援【子育て中の保護者調査】

Q: あなたは、仕事と子育ての両立に関して、どのような支援が必要だと思いますか。



少子化対策に関する課題

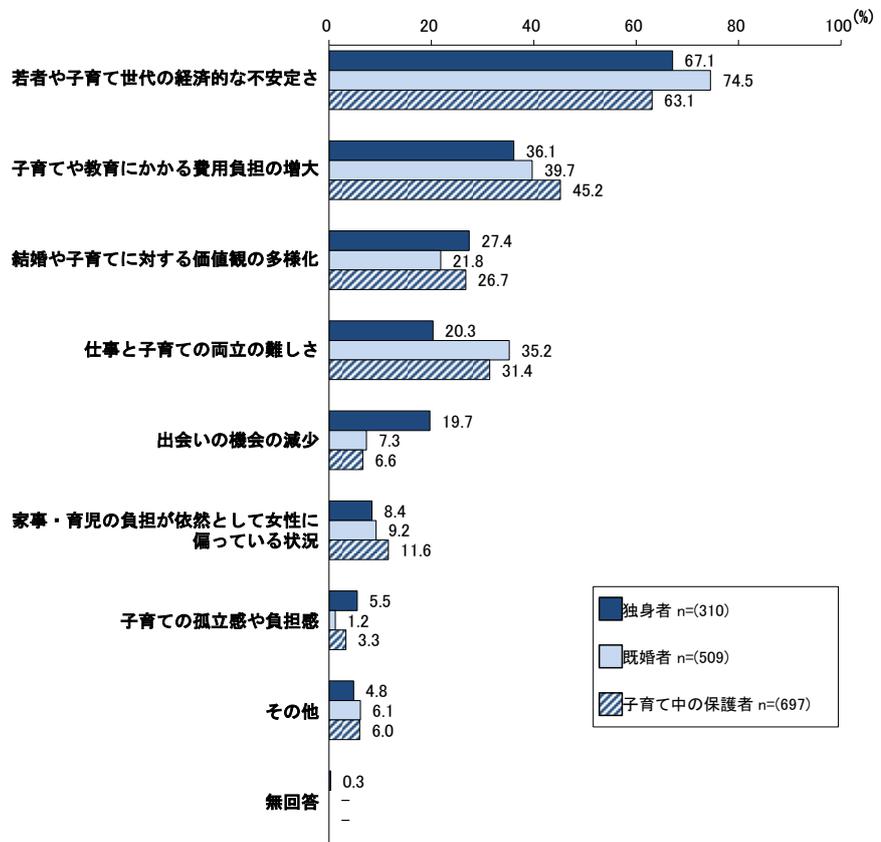
少子化の要因について、独身者、既婚者、子育て中の保護者の約6割から7割が「若者や子育て世代の経済的不安定さ」を挙げており、次いで、「子育てや教育にかかる費用の増大」が挙げられています。これらの課題意識は県調査よりも高い傾向がみられます。

少子化対策の施策の重要度については、独身者、既婚者、子育て中の保護者のいずれも「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が最も重要として考えられており、次いで、独身者では「若い世代の所得向上に向けた取組」、「保育サービスの充実」、既婚者では「保育サービスの充実」、「不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」、子育て中の保護者では「保育サービスの充実」、「出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」が重要と考えられています。

また、施策の重要度は高いが、現在の充実度が低いと考えられているのは、「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」、「若い世代の所得向上に向けた取組」、「若者の経済的自立を支援する取組」、「出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」などが挙げられています。

■少子化の要因

Q：現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。少子化の要因はどのようなことだと思いますか。



【県調査】



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

■少子化対策としての重要度・取組状況【独身者調査】

Q：次の各施策について、少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。

Q：現状の少子化対策の各施策の取組み状況についてどう思いますか。

少子化対策の各施策の重要度および取組状況の5段階回答を指標化（※）しました。

※指標化の方法

各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化しました。得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示しています。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.51	1.34
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.50	1.21
② 保育サービスの充実	3.48	1.70
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.43	1.45
⑳ 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.41	1.54
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.34	1.20
⑪ 産科医療体制の整備	3.31	1.82
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.28	1.60
⑳ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.25	1.58
⑩ 小児医療体制の整備	3.24	2.00
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.13	1.62
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	3.13	1.60
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.06	1.44
⑫ 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	2.99	1.92
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.88	2.09
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.86	1.91
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.86	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.82	1.93
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.70	1.73
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.67	1.42
㉓ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.57	2.00
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.60
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.32	1.82

■少子化対策としての重要度・取組状況【既婚者調査】

Q：次の各施策について、少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。

Q：現状の少子化対策の各施策の取組み状況についてどう思いますか。

少子化対策の各施策の重要度および取組状況の5段階回答を指標化（※）しました。

※指標化の方法

各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化しました。得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示しています。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.74	0.98
② 保育サービスの充実	3.71	1.48
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.62	1.19
⑳ 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.61	1.14
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.56	1.05
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.49	0.92
⑪ 産科医療体制の整備	3.48	1.50
⑳ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.39	1.39
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.36	1.06
⑩ 小児医療体制の整備	3.30	1.73
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.23	1.21
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.06	1.50
㉑ 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.04	1.72
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.97	1.53
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.83	1.92
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.82	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.80	1.84
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.64	1.52
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.57	1.31
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.57	1.71
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.46
㉒ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.37	1.91
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.16	1.59

■少子化対策としての重要度・取組状況【子育て中の保護者調査】

Q：次の各施策について、少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。

Q：現状の少子化対策の各施策の取組み状況についてどう思いますか。

少子化対策の各施策の重要度および取組状況の5段階回答を指標化（※）しました。

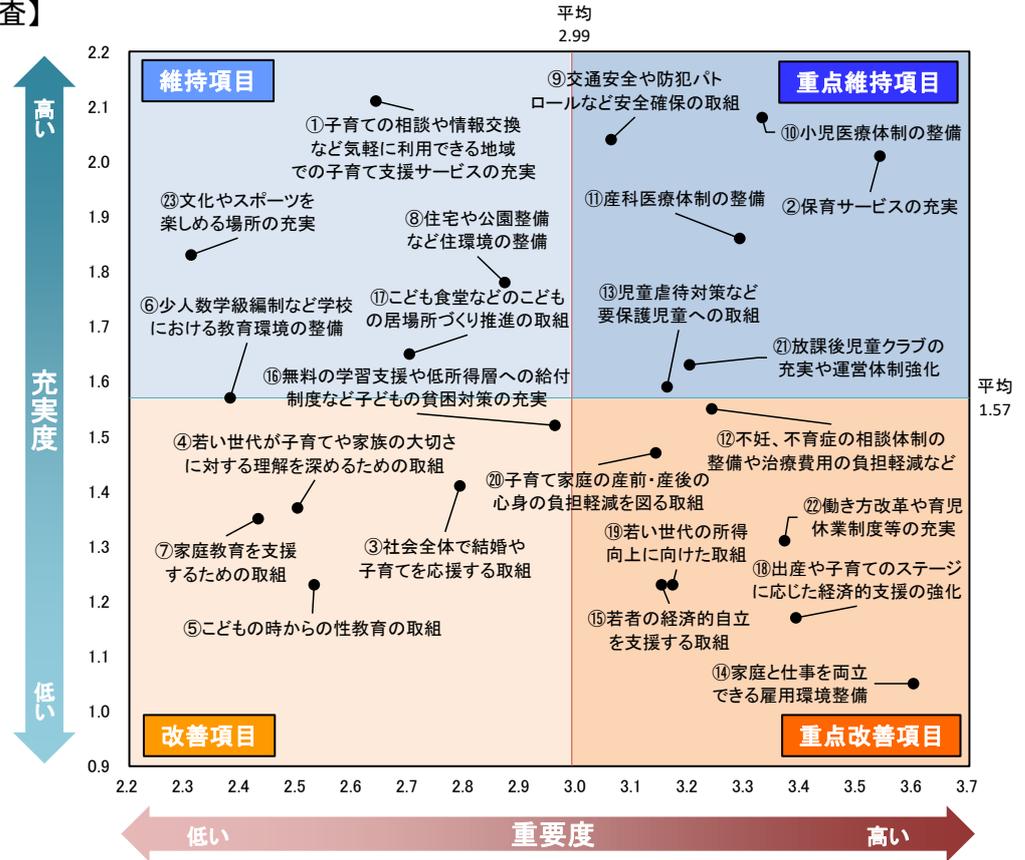
※指標化の方法

各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化しました。得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示しています。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.60	1.05
② 保育サービスの充実	3.54	2.01
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.39	1.17
⑳ 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.37	1.31
⑩ 小児医療体制の整備	3.33	2.08
⑪ 産科医療体制の整備	3.29	1.86
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.24	1.55
㉑ 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.20	1.63
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.17	1.23
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.16	1.59
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.15	1.23
⑳ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.14	1.47
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	3.06	2.04
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.96	1.52
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.87	1.78
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	2.79	1.41
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.70	1.65
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.64	2.11
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.53	1.23
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.50	1.37
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.43	1.35
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.38	1.57
㉒ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.31	1.83

【子育て中の保護者調査】



定住意向と転出意向

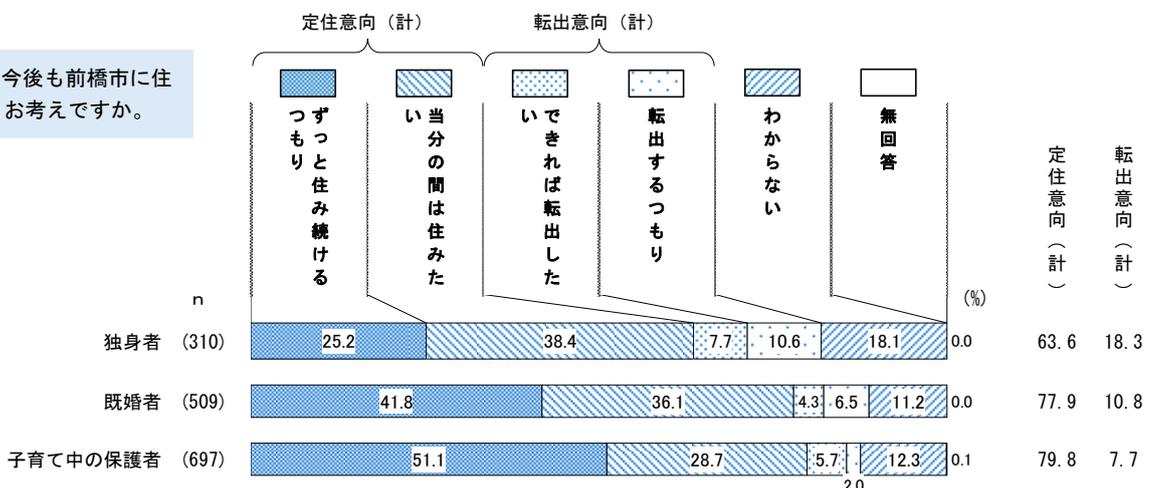
独身者の約6割は前橋市に「ずっと住み続けるつもり」または「当分の間は住みたい」と定住意向を持ち、約2割が「できれば転出したい」、「転出するつもり」と転出意向を持っています。

また、既婚者、子育て中の保護者については、いずれも約8割が定住意向を持ち、約1割が転出意向を持っています。

転出意向を持つ方の転出先については、独身者は「県外」の割合が高く、子育て中の保護者は「県内」の割合が高くなっています。転出を考える理由としては「他の市町村に魅力を感じたから」が多く挙げられおり、次いで、「前橋市での生活に不満を感じるから」となっています。その他の理由としては、独身者では「就職のため」、「結婚のため」、既婚者では「家を建てるため」、「家族の都合のため」、子育て中の保護者では「実家があるため」、「海外志向のため」といったものが挙げられています。

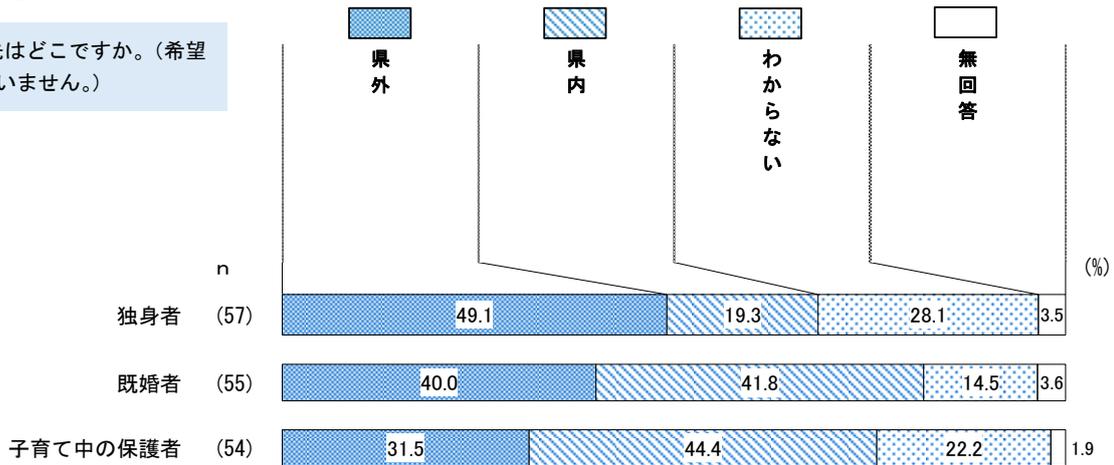
定住意向

Q: あなたは、今後も前橋市に住み続けたいとお考えですか。



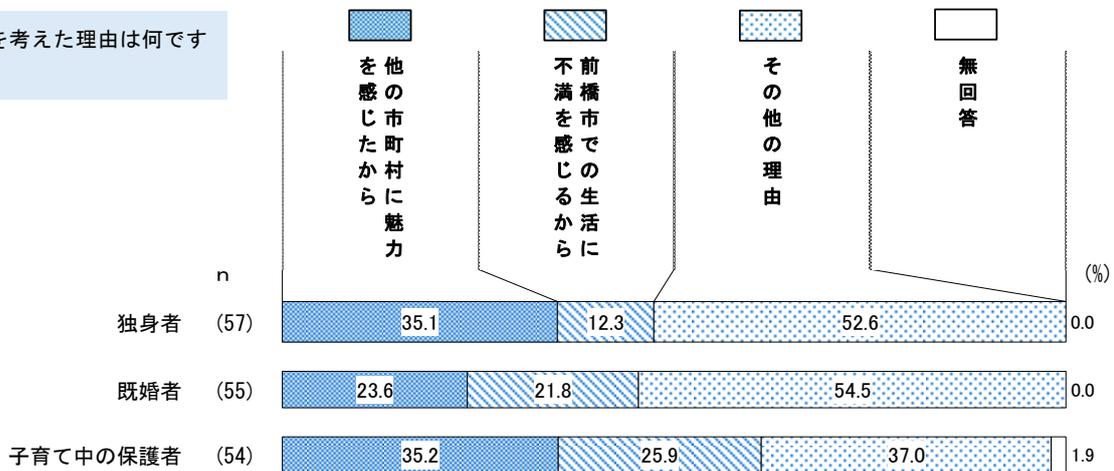
■希望する転出先

Q：転出先はどこですか。(希望でもかまいません。)



■転出を考えた理由

Q：転出を考えた理由は何ですか。



<その他の理由>※主な内容を抜粋

独身者
<ul style="list-style-type: none"> ・就職／仕事のため ・結婚／交際のため ・人生経験のため
既婚者
<ul style="list-style-type: none"> ・実家があるため ・家を建てる／土地があるため ・仕事（配偶者の仕事）のため ・家族の都合のため
子育て中の保護者
<ul style="list-style-type: none"> ・実家があるため ・子育て支援が充実しているため ・海外志向のため

3 こどもの生活状況調査（中学2年生、中学2年生保護者）

暮らしの状況と経済的理由による生活困難

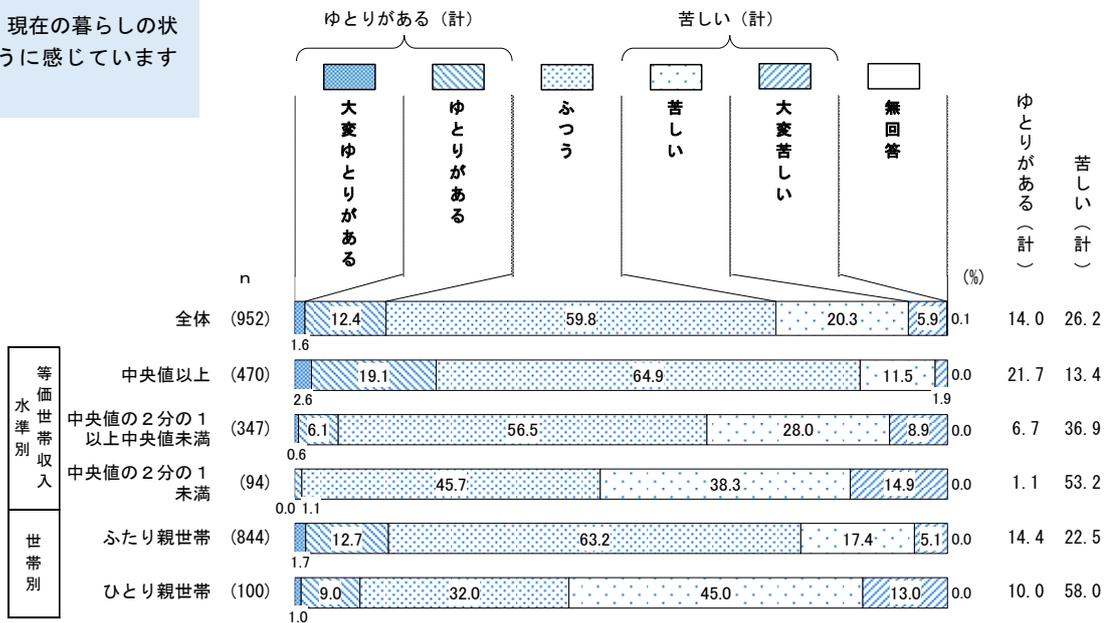
暮らしが苦しいと感じている世帯は全体で2割台半ばとなっています。また、収入の水準や世帯の状況でみると、等価世帯収入水準が中央値の2分の1未満（本アンケート調査では162.5万円未満）の世帯では5割台半ば、ひとり親世帯では約6割が生活の厳しさを認識しています。

経済的理由によりできなかった経験をたずねると、全体では食料が買えなかった家庭は12.6%、衣服が買えなかった家庭は15.0%、公共料金の未払い経験は4.9%となっており、収入水準が低い世帯や、ひとり親世帯では経験があったという回答の割合が増加しています。

また、いずれの経験も、「物価が上昇したため」が理由として最も多く挙げられています。

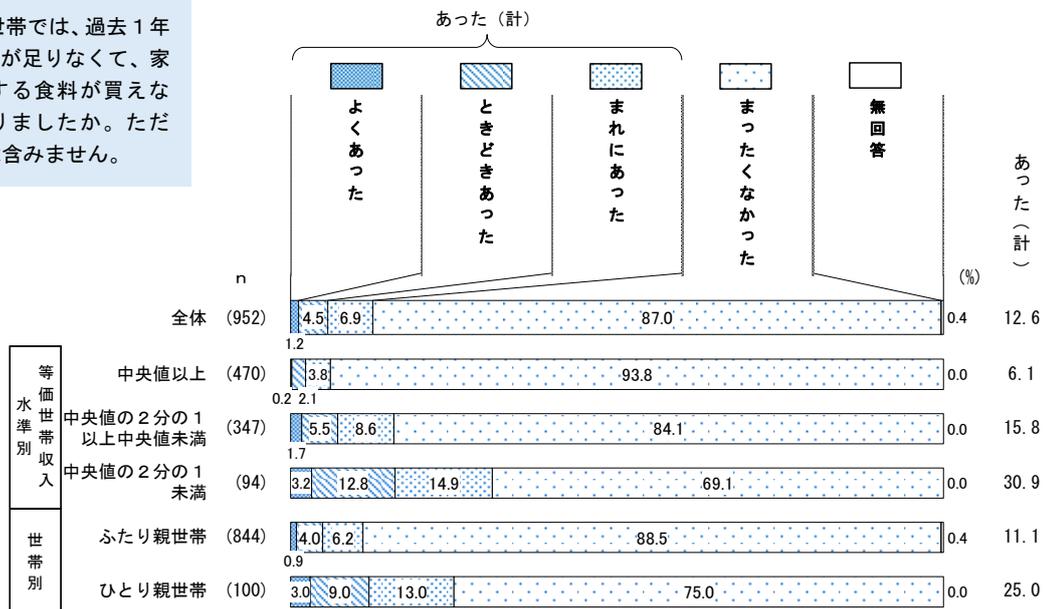
■暮らしの状況【中学2年生保護者調査】

Q: あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。



■食料が買えなかった経験【中学2年生保護者調査】

Q: あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。



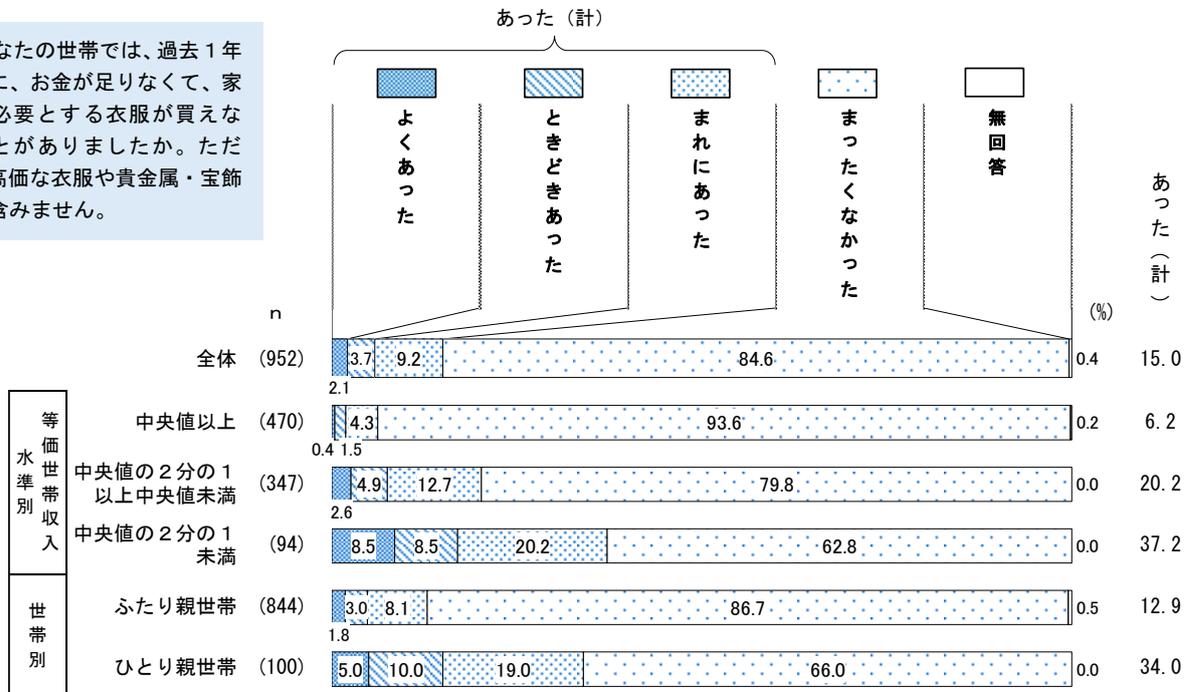
■食料が買えなかった理由【中学2年生保護者調査】

Q：食料が買えなかった理由として考えられるものは何ですか。

	調査数 (n)	物価が上昇したため	世帯の収入が減少したため	大きな臨時支出があったため	世帯主が失業したため	家族が増えるため	その他	無回答
単位：%								
全体	120	71.7	29.2	16.7	1.7	0.8	5.0	8.3

■衣服が買えなかった経験【中学2年生保護者調査】

Q：あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。



■衣服が買えなかった理由【中学2年生保護者調査】

Q：衣服が買えなかった理由として考えられるものは何ですか。

	調査数 (n)	物価が上昇したため	世帯の収入が減少したため	大きな臨時支出があったため	世帯主が失業したため	家族が増えるため	その他	無回答
単位：%								
全体	143	65.0	24.5	24.5	1.4	0.0	5.6	9.8

■ 公共料金における未払いの経験【中学2年生保護者調査】

Q: あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。

		調査数 (n)	携帯電話、スマートフォン料金	電気料金	水道料金	ガス料金	あてはまるものはない	無回答
単位: %								
全体		952	2.5	2.3	2.1	2.0	94.3	0.8
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	0.4	0.9	0.9	0.6	98.5	0.2
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	4.3	2.9	2.9	2.9	92.2	0.6
	中央値の2分の1未満	94	6.4	7.4	4.3	4.3	86.2	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	2.3	2.3	1.7	1.9	95.1	0.8
	ひとり親世帯	100	4.0	3.0	6.0	3.0	89.0	0.0

■ 公共料金における未払いの理由【中学2年生保護者調査】

Q: 公共料金の未払いの理由として考えられるものは何ですか。

		調査数 (n)	物価が上昇したため	世帯の収入が減少したため	大きな臨時支出があつたため	世帯主が失業したため	家族が増えるため	その他	無回答
単位: %									
全体		46	56.5	43.5	39.1	2.2	2.2	10.9	0.0

学習状況と進学希望・展望

学校の授業以外の勉強方法について、全体では「自分で勉強する」と回答した子どもが多い結果となっていますが、収入の水準が低い世帯や、ひとり親世帯では「塾で勉強する」、「家の人に教えてもらう」子どもの割合が低くなり、自己学習に頼る傾向が強くなっています。

また、勉強時間についても、世帯の収入や状況が影響しており、収入の水準が低い世帯や、ひとり親世帯では学校の授業以外の勉強時間が短くなる傾向にあります。

さらに、進学希望について、子ども本人、保護者ともに「大学進学」を希望する割合が高いものの、ひとり親世帯では「家庭の経済状況」を理由に進学が難しいと考える割合が高くなっています。家庭の経済状況が障壁となり、子どもの進学希望に影響を及ぼしていることがわかります。

■学校の授業以外の勉強の仕方【中学2年生調査】

Q: あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

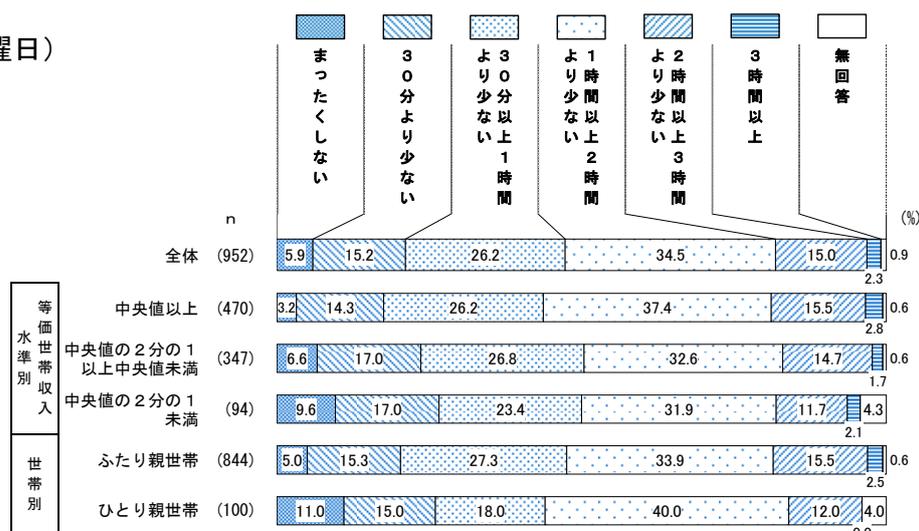
		調査数 (n)	自分で勉強する	塾で勉強する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家庭教師に教えてもらう	学校の補習を受ける	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全体		952	84.9	45.2	31.6	25.8	2.7	1.8	0.5	4.0	4.0	0.1
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	85.1	54.3	35.7	26.2	2.1	1.3	0.9	3.8	2.3	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	85.3	36.3	29.4	27.1	3.2	2.3	0.0	4.0	5.5	0.3
	中央値の2分の1未満	94	80.9	33.0	22.3	19.1	4.3	2.1	1.1	4.3	6.4	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	86.0	46.2	32.7	26.2	2.8	1.7	0.6	4.0	3.8	0.1
	ひとり親世帯	100	78.0	38.0	21.0	23.0	2.0	3.0	0.0	4.0	4.0	0.0

単位: %

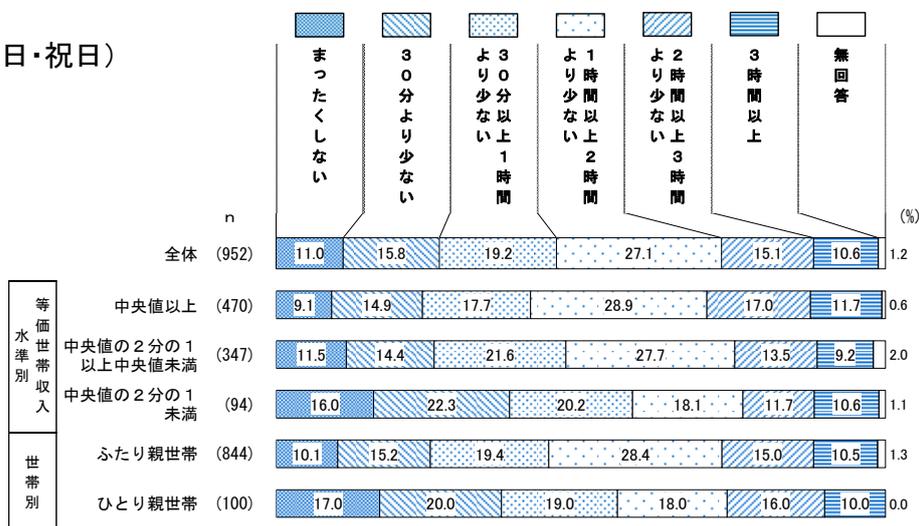
■授業以外の1日あたりの勉強時間【中学2年生調査】

Q: あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

学校がある日(月～金曜日)



学校がない日(土・日曜日・祝日)



■進学したいと思う教育段階【中学2年生調査】

Q：あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。

		調査数 (n)	中学校まで	高等学校まで	専門学校まで	短大まで	5年制の高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	まだわからない	無回答
単位：%												
全体		952	0.4	14.0	9.6	1.1	0.5	48.2	2.5	0.2	23.4	0.1
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	0.0	9.1	9.4	1.1	0.2	56.4	2.6	0.0	21.3	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	1.2	16.7	7.8	1.2	0.9	42.9	2.0	0.6	26.8	0.0
	中央値の2分の1未満	94	0.0	28.7	16.0	1.1	0.0	30.9	3.2	0.0	19.1	1.1
世帯別	ふたり親世帯	844	0.4	13.0	8.5	1.1	0.6	49.4	2.7	0.1	24.1	0.1
	ひとり親世帯	100	1.0	22.0	18.0	1.0	0.0	39.0	1.0	1.0	17.0	0.0

■子どもの進学段階に関する希望・展望【中学2年生保護者調査】

Q：お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。

		調査数 (n)	中学校まで	高等学校まで	専門学校まで	短大まで	5年制の高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	まだわからない	無回答
単位：%												
全体		952	0.5	10.8	12.3	1.7	0.1	52.1	2.0	0.0	20.5	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	470	0.0	5.7	10.4	1.7	0.0	62.6	3.0	0.0	16.6	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	347	0.9	13.5	14.1	2.0	0.3	42.7	1.4	0.0	25.1	0.0
	中央値の2分の1未満	94	2.1	25.5	16.0	1.1	0.0	34.0	0.0	0.0	21.3	0.0
世帯別	ふたり親世帯	844	0.5	9.5	11.6	1.5	0.1	54.4	2.0	0.0	20.4	0.0
	ひとり親世帯	100	1.0	21.0	18.0	3.0	0.0	33.0	2.0	0.0	22.0	0.0

■進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由【中学2年生保護者調査】

Q：その理由は何ですか。

		調査数 (n)	お子さんがそう希望しているから	お子さんの学力から考えて	一般的な進路だと思われるから	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
単位：%									
全体		757	46.2	35.3	28.8	9.0	4.5	7.4	0.0
等価世帯収入水準別	中央値以上	392	50.3	35.2	33.9	6.1	4.8	5.4	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	260	44.2	35.0	25.0	10.4	3.8	8.8	0.0
	中央値の2分の1未満	74	37.8	36.5	12.2	20.3	6.8	13.5	0.0
世帯別	ふたり親世帯	672	47.2	35.0	30.2	7.3	4.5	7.4	0.0
	ひとり親世帯	78	39.7	38.5	16.7	23.1	5.1	7.7	0.0

相談環境と頼れる人の存在

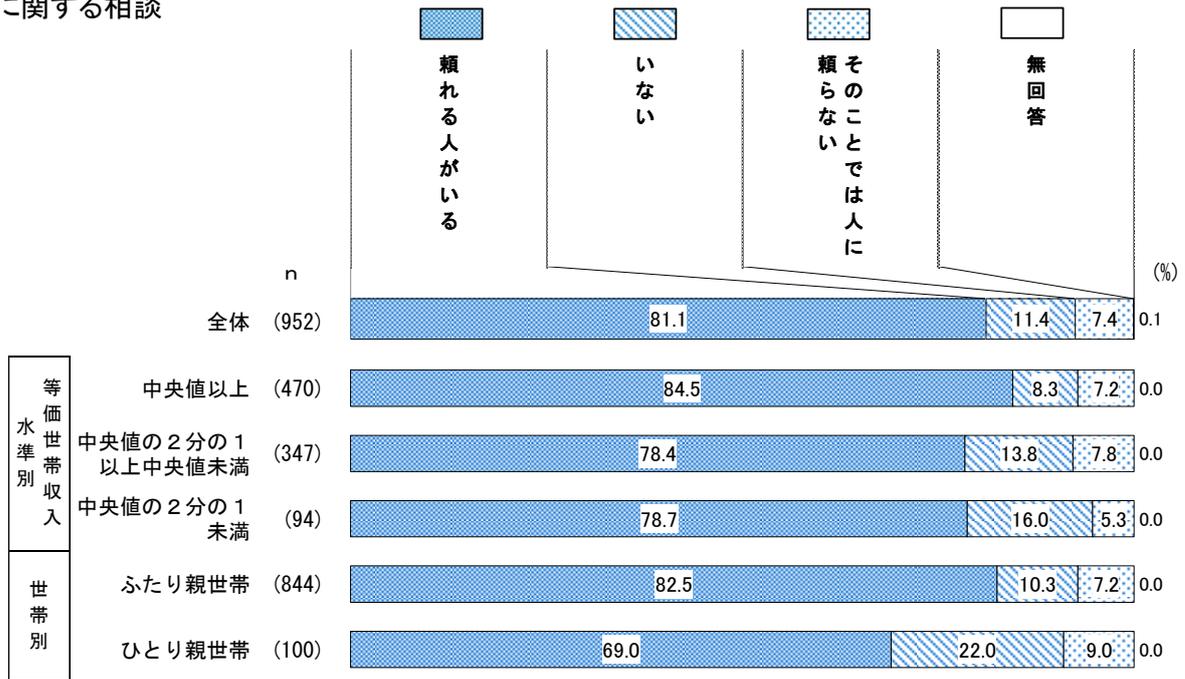
保護者の8割以上が「相談できる人がある」と回答しており、相談相手としては「家族・親族」が最も多く挙げられています。ひとり親世帯では「相談できる人がいない」状況の方の割合が他の世帯よりも高くなっています。

■頼れる人の有無・頼れる相手【中学2年生保護者調査】

Q：あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

Q：それはだれですか。

子育てに関する相談



子育てに関する相談をしたい時に頼れる相手

		調査数 (n)	家族・親族	友人・知人	職場の人	近所の人	相談・支援機関や福祉の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
単位：%										
全体		772	90.3	66.1	31.9	8.2	4.0	0.3	3.2	0.0
等価世帯収入	中央値以上	397	92.7	67.3	34.3	9.1	4.5	0.0	2.8	0.0
	中央値の2分の1以上中央値未満	272	88.6	65.8	32.4	7.0	3.7	0.4	2.2	0.0
	中央値の2分の1未満	74	86.5	60.8	20.3	6.8	4.1	1.4	6.8	0.0
世帯別	ふたり親世帯	696	91.4	66.8	32.3	8.6	3.7	0.3	2.4	0.0
	ひとり親世帯	69	82.6	62.3	29.0	4.3	5.8	0.0	8.7	0.0

生活満足度と心理的状态

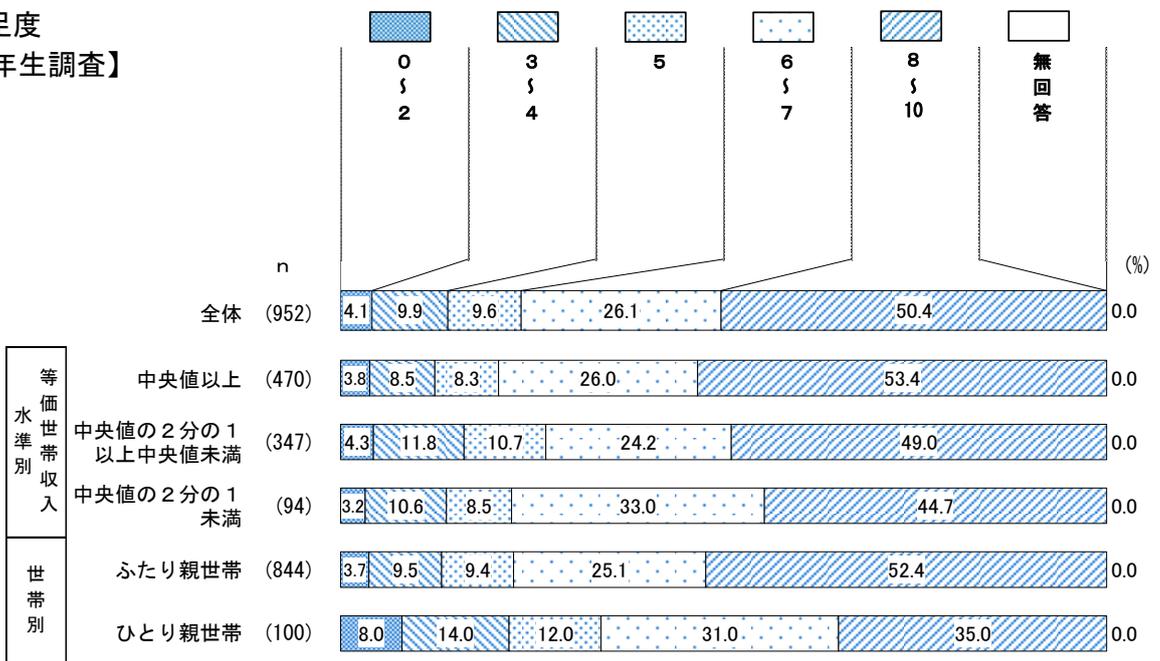
生活満足度について、子ども本人では7割台半ば、保護者では6割超えで満足度が高い結果（6以上と回答）となっていますが、収入水準が低い世帯や、ひとり親世帯では満足度の高い世帯の割合が減少しています。

また、子どもの心理的状态についても、情緒的問題や仲間関係の問題では、等価世帯収入が低くなるにつれて問題性が高くなっており、収入水準が低い世帯やひとり親世帯の子どもが抱える心理的負担が大きいことがわかりました。

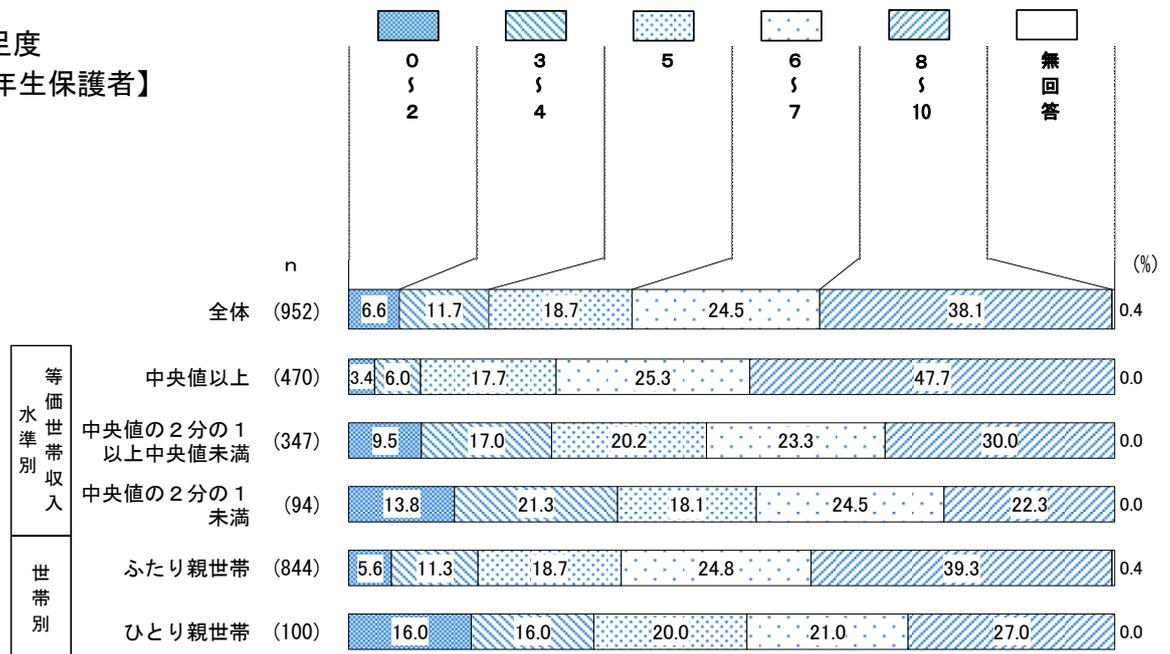
保護者の心理的状态についても、収入水準が低い世帯やひとり親世帯では「うつ・不安障害相当」の割合（13点以上）が高く、世帯の収入や状況が精神的健康に影響を及ぼしている可能性があります。

Q: 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。

生活満足度 【中学2年生調査】



生活満足度 【中学2年生保護者】



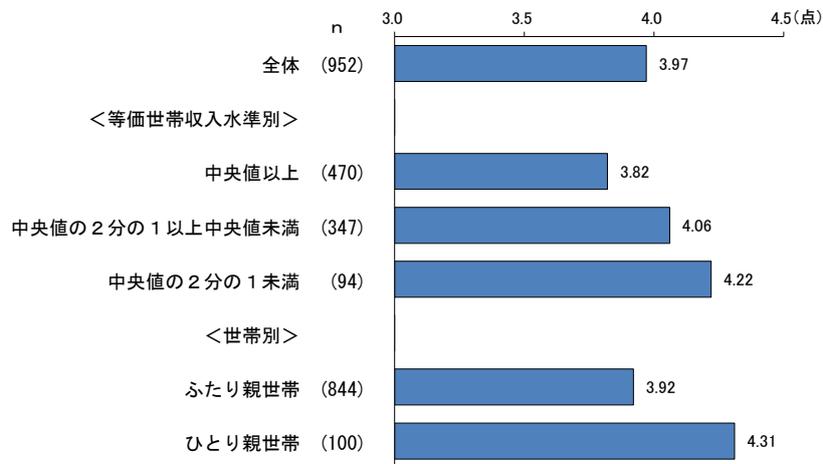
■子どもの心理的な状態【中学2年生調査】

情緒の問題

Q：以下のそれぞれの質問について、「あてはまる」「まあ、あてはまる」「あてはまらない」のどれかから回答してください。

※「情緒の問題」に関して、5つの質問項目の点数を合計して、得点を算出しました（0～10点：得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。採点方法は、ひとつの質問項目ごとに、2点（あてはまる）、1点（まあ、あてはまる）、0点（あてはまらない）と点数化しています。

質問項目	2	私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
	5	私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
	8	私は、落ち込んでしずんでいたりと、涙ぐんだりすることがよくある。
	10	私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
	15	私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

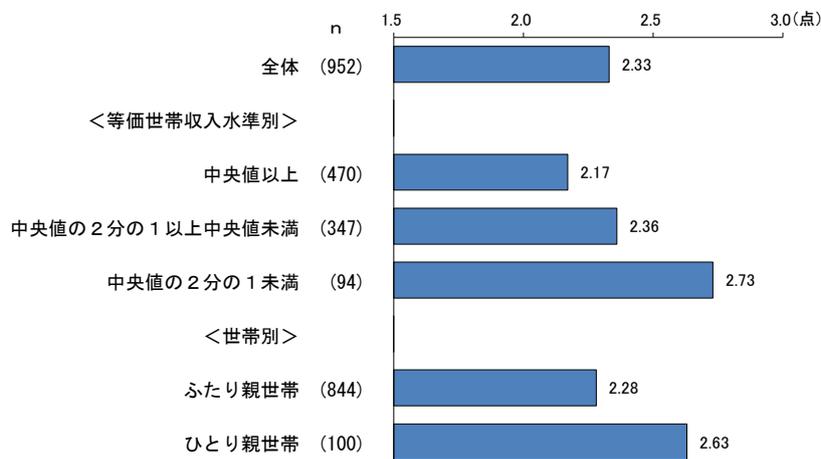


仲間関係の問題

Q：以下のそれぞれの質問について、「あてはまる」「まあ、あてはまる」「あてはまらない」のどれかから回答してください。

※「仲間関係の問題」に関して、5つの質問項目の点数を合計して、得点を算出しました（0～10点：得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。採点方法は、ひとつの質問項目ごとに、2点（あてはまる）、1点（まあ、あてはまる）、0点（あてはまらない）と点数化しています。

質問項目	4	私は、たいいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
	7	私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
	9	私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたいは好かれている。
	12	私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。
	14	私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく。

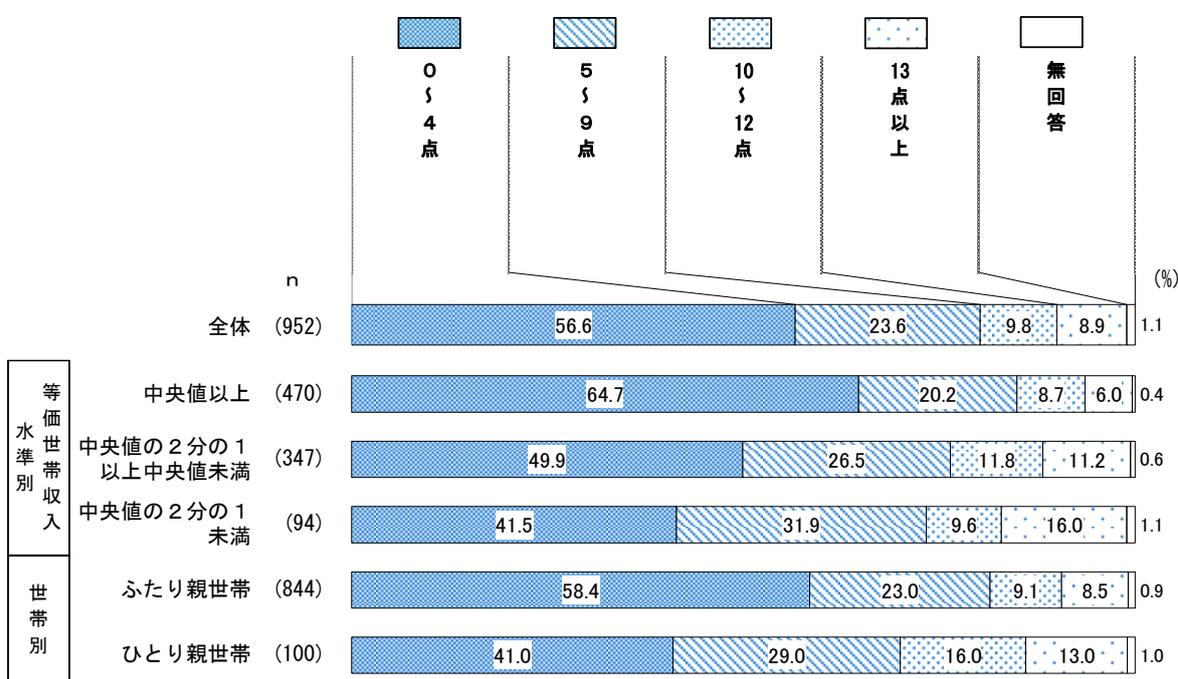


■保護者の心理的な状態(K6)【中学2年生保護者調査】

Q：この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。

※「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの質問項目を設定し、この6つの項目の結果を合計して、K6の得点を算出しました。採点方法は、ひとつの質問項目ごとに0点（まったくない）、1点（少しだけ）、2点（ときどき）、3点（たいてい）、4点（いつも）と点数化し、合計を0点から24点で算出しました。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示しています。

質問項目	1 神経過敏に感じた
	2 絶望的だと感じた
	3 そわそわ、落ち着かなく感じた
	4 気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じた
	5 何をするのも面倒だと感じた
	6 自分は価値のない人間だと感じた



4 事業者実態・意識調査

育児休業取得率と復職率

令和5年度の育児休業取得率は男性で約5割、女性で9割台半ばと男女ともに県調査より高い結果となりました。育児休業取得後の復職率をみると、男性ではほぼ全数、女性では9割台半ばとなっています。

育児休業の取得期間については、男性では「2週間未満」が最も多く、県調査で最も多かった「1か月～3か月未満」に比べて期間が短くなっています。

■令和5年度の出産・育児休業等取得者の状況

	男性	女性	その他
令和5年度に本人もしくはパートナー（配偶者）が出産した従業員数	230人	178人	12人
上記のうち、育児休業を取得した（取得中を含む）従業員数	108人	172人	7人
育児休業取得率	47.0%	96.7%	58.3%
上記で「取得した」者のうち、「産後パパ育休」（出生時育児休業）を利用した従業員数	73人	-	4人
「産後パパ育休」取得率	67.6%	-	57.1%

【県調査】

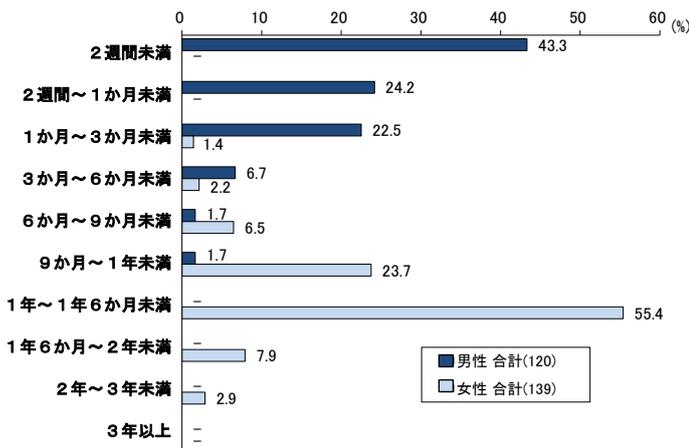
	男性	女性	その他
令和4年度に本人もしくはパートナー（配偶者）が出産した従業員数	255人	221人	0人
上記のうち、育児休業を取得した従業員数	94人	203人	0人
育児休業取得率	36.9%	91.9%	0.0%
上記で「取得した」者のうち、「産後パパ育休」（出生時育児休業）を利用した従業員数	58人	-	0人
「産後パパ育休」取得率	61.7%	-	0.0%

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

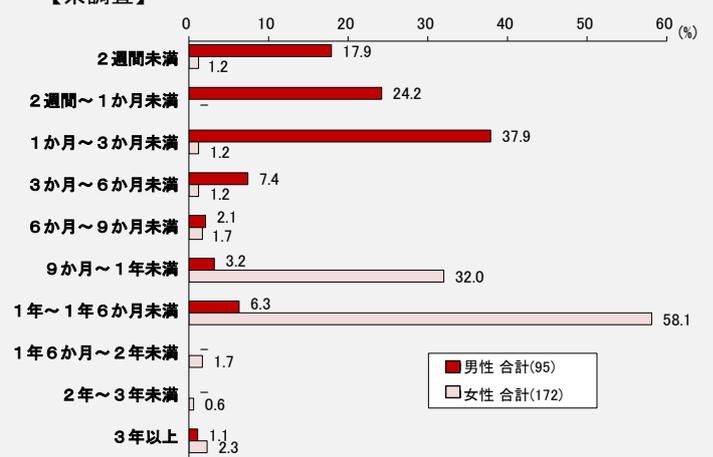
■令和5年度の復職者の状況

	男性	女性	その他
復職者数と取得後退職者数の計 （令和5年度に出産・育児休業等が終了した従業員数）	115人	128人	6人
上記のうち、復職者数	114人	119人	6人
構成比	99.1%	93.0%	100.0%
上記のうち、取得後退職者数	1人	9人	0人
構成比	0.9%	7.0%	0.0%

■復職者の育児休業取得期間



【県調査】



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査 / 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

子育て中の従業員への支援

子育て中の従業員への支援制度について、最も多いのが「短時間勤務制度」で6割台半ばの事業所に制度があります。その他の制度では「所定外労働の免除」、「子ども看護休暇制度」などが多く挙げられています。一方、「事業所内託児施設」や「育児休業中の経済的支援」、「育児サービス利用等に関する援助」は実施している事業所が1割未満と少ない状況です。

■子育て中の従業員への制度の有無（無回答を除いた集計結果）

Q：子育て中の従業員に対する次のような制度がありますか。（ある場合は、子が何歳になるまで利用できますか）

制度	調査数 (n)	年齢制限							制度なし	制度あり (計)
		1歳未満	1～3歳未満	3歳～小学校入学前	小学校低学年まで	小学校卒業まで	小学校卒業後も利用可	制度なし		
短時間勤務制度	450	8.2	27.1	11.1	2.7	3.6	11.8	35.6	64.5	
所定外労働の免除	397	4.8	18.4	14.1	0.8	2.8	9.1	50.1	50.0	
子ども看護休暇制度	400	2.3	3.8	26.0	1.3	4.3	8.5	54.0	46.2	
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	415	6.0	11.8	7.0	1.9	2.9	15.2	55.2	44.8	
配偶者出産時特別休暇	397	26.2	2.5	1.3	0.5	0.3	8.1	61.2	38.9	
男性の育児休業制度や「共育て」のための特別休暇	390	20.8	9.0	2.6	0.8	0.3	5.4	61.3	38.9	
フレックスタイム制度	390	2.1	3.6	2.6	0.5	1.0	10.5	79.7	20.3	
在宅勤務制度	383	1.8	1.3	0.5	1.0	0.3	9.7	85.4	14.6	
育児サービス利用等に関する援助	378	1.9	0.8	0.8	0.5	1.3	2.4	92.3	7.7	
育児休業中の経済的支援（雇用保険による育児休業給付金を除く）	377	3.4	1.1	0.0	0.0	0.8	1.6	93.1	6.9	
事業所内託児施設	374	0.3	1.9	0.5	0.0	0.5	0.0	96.8	3.2	
その他	221	0.5	0.9	0.5	0.9	0.5	0.9	95.9	4.2	

仕事と家庭の両立支援

仕事と家庭の両立を支援するための制度として最も多く挙げられたのは、「半日または時間単位の休暇制度」で約5割の事業所で実施されています。そのほか「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」や「結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度」が多く挙げられています。一方で、「特に制度を設けていない」と回答している事業所が約3割と多くなっています。

■仕事と家庭の両立支援制度

Q：貴社には、仕事と家庭の両立を支援するため、次のような制度がありますか。

	調査数 (n)	短時間または時間単位の休暇制度	パート、正社員間の身分の切り替え制度	結婚・出産、育児、介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度	在宅勤務制度	復職後の研修制度や休業中に情報を提供する制度	育児・介護休業法を上回る水準の育児休業制度または介護休業制度	育児・介護休業期間中の生活資金等の貸付制度	その他	特に制度は設けていない	無回答
単位：%											
全体	562	47.2	36.7	23.7	12.5	11.4	6.0	2.7	2.3	29.7	3.9

「共育て」の促進

「共育て」を促進するために有効な取組として、多くの事業所が「年次有給休暇の取得促進」「職場の人員体制整備」「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」などを挙げています。

■「共育て」を促進するために有効な取組

Q：男性の育児休業制度の利用を含めた「共育て」を促進するためには、どのような取組が有効と考えますか。

	調査数 (n)	年次有給休暇の取得を促進する	職場の人員体制を整える	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	長時間勤務を是正する	必要性について、管理職の理解を深める	必要性について、当人の理解を深める	育児休業中の経済的支援を行う	育児休業について複数回の取得を認める	研修や情報提供を行う	その他	わからない	無回答
単位：%													
全体	562	46.3	42.3	29.9	27.4	18.1	13.5	12.3	8.5	3.4	2.0	13.0	2.3

資料編（全体版及び調査票）

1 報告書（全体版）及び調査票

本調査結果報告書の全体版及びアンケート調査票は、本市のホームページ上に公表しています。下記のURLまたは二次元コードからご覧ください。

▼市ホームページURL

https://www.city.maebashi.gunma.jp/kosodate_kyoiku/2/1/43964.html

▼市ホームページ二次元コード



前橋市少子化対策等に関する市民アンケート調査

－ 報告書 －

【概要版】

令和7年3月

発行：前橋市 こども未来部 こども支援課
群馬県前橋市朝日町三丁目36番17号
電話 027-212-0883

調査：株式会社サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里二丁目40番10号
電話 03-3802-6711
